

# 実践編

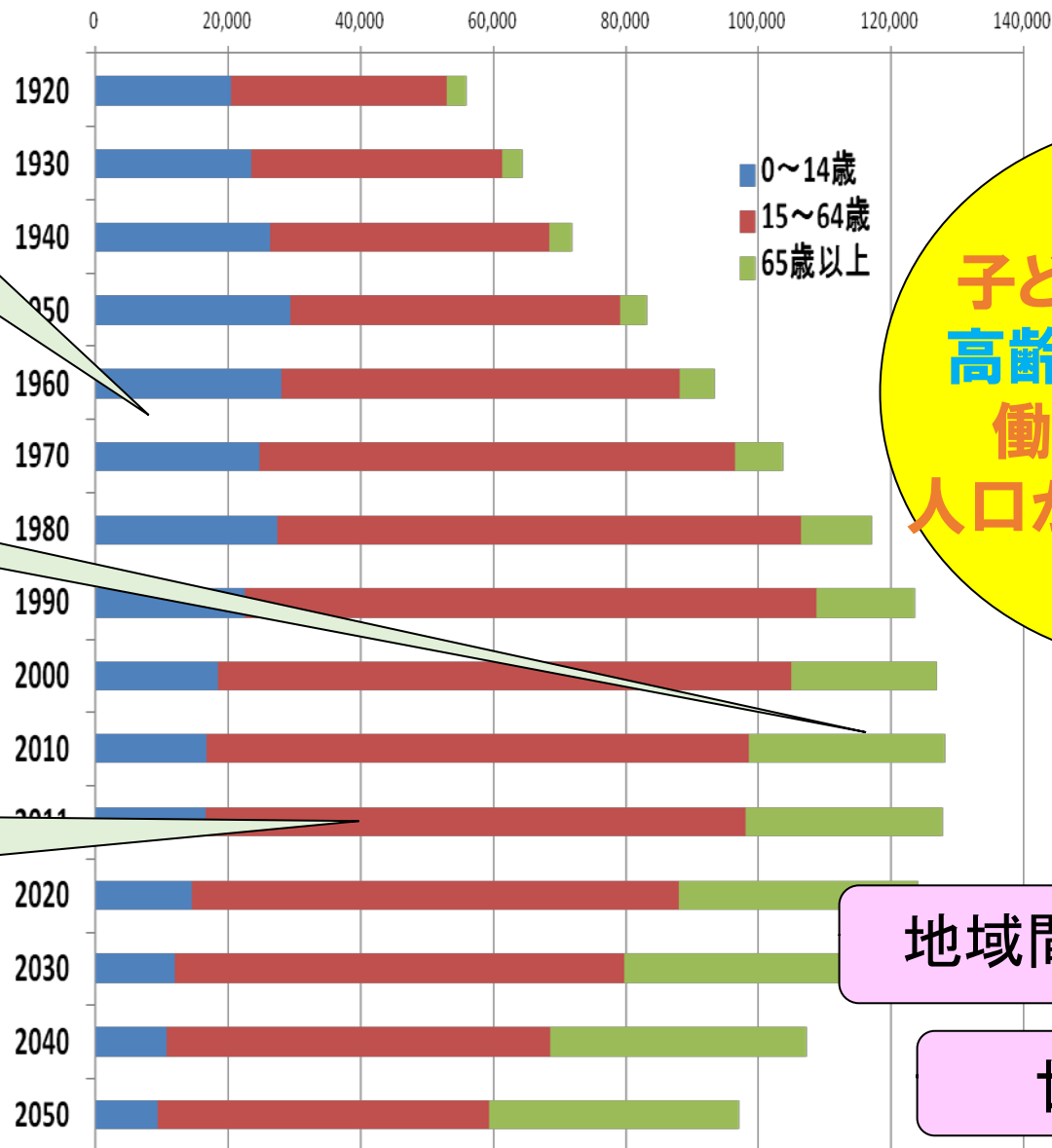
## 少子高齢・人口減少社会を支える子を育む 生活科・総合的な学習の時間の課題VI

### — 小学校第5学年「橋が流された」の実践を通して —

静岡大学名誉教授  
静岡大学教育学部  
静岡県富士宮市立内房小学校  
静岡県焼津市立黒石小学校  
静岡県伊東市立大池小学校  
秋田県秋田市立高清水小学校

馬居 政幸  
田宮 縁  
米津 英郎  
新村 弘道  
佐藤久美子  
渡部 和則

# 少子高齢・人口減少とは



子どもの減少

高齢者の増加

生産労働者の減少

子どもが減少し、  
高齢者が増加し、  
働く人も減り、  
人口が減少する社会

地域間差異→格差

世代間格差

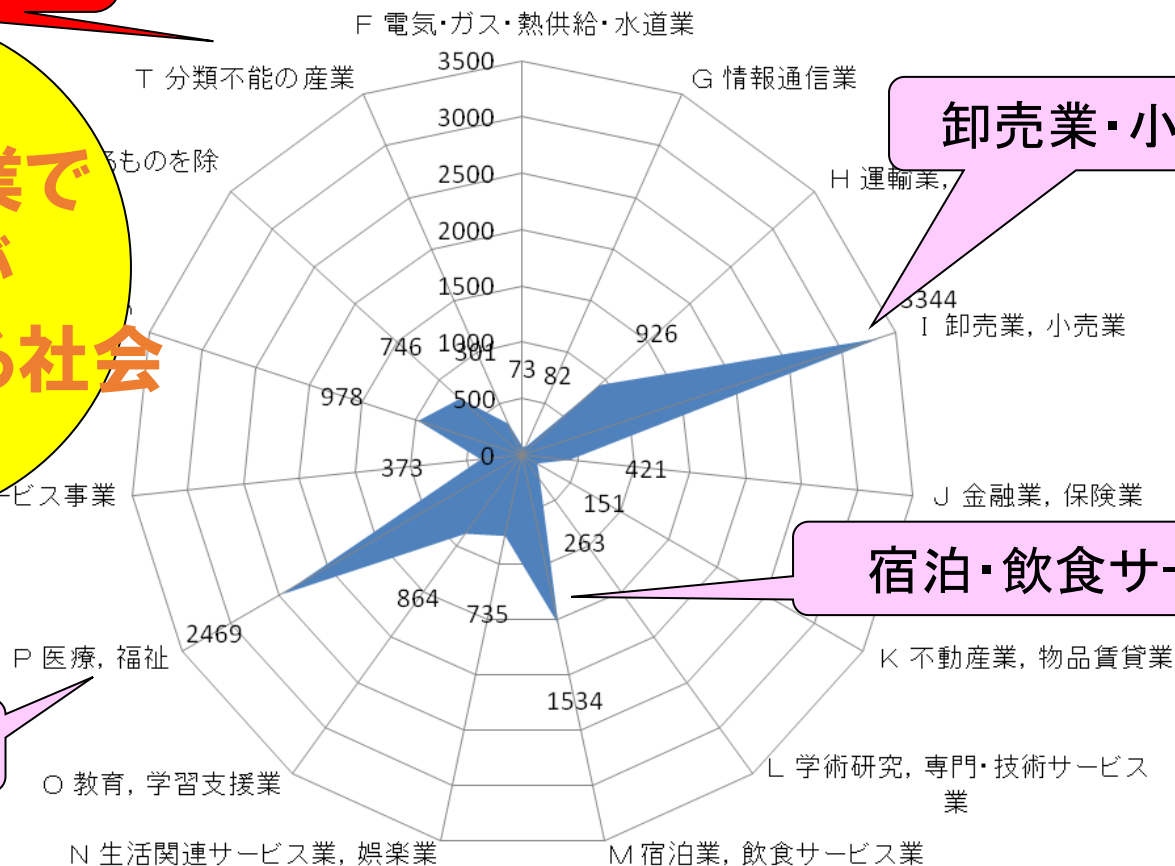
# 少子高齢・人口減少社会とは

世代内格差

第3次産業就業者数  
72.7%

平成22年度 国勢調査 第三次産業就業者数

第3次産業で  
働く人が  
多数派になる社会



卸売業・小売業

宿泊・飲食サービス業

医療・福祉

予期せぬ出来事が起きる

# これまでの主な授業実践

2004年 大宮小 社会科第6学年 単元名「みんなの子公民館」

2005年 大宮小 社会科第4学年 単元名「浅間大社の秋祭り」

2006年 大宮小 総合第6学年 単元名「まちづくり」

2009年 富士第一小 総合第5学年 単元名「メダカを飼おう」

2008年 富士第一小 総合第5学年 単元名「池をきれいにしよう」

2009年 富士第一小 総合第5学年 単元名「みんなが来たがる池にしよう」

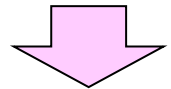
2010年 貴船小 社会科第6学年 単元名「選挙に行こう」

2012年 貴船小 総合第6学年 単元名「働くとは」

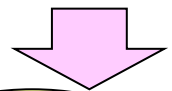
2013年 内房小 総合第4学年 単元名「バス停がなくなった」

2014年 内房小 総合第5学年 単元名「橋が流された」

【少子高齢化】  
・自分の意見をもつ  
・高齢者対応  
・まちの財政



【人口減少】  
・コミュニケーション能力  
・他者貢献



【第3次産業で働く】  
・コミュニケーション能力  
・他者貢献  
・予期せぬ出来事に対応する力

## 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」

### 育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程の構造化（イメージ）

#### 教育の普遍的な目的・目標

- 教育基本法に規定する教育の目的(1条)、目標(2条)等
- 学校教育法に規定する教育の目的・目標、学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲)等

#### 時代の変化や子供たちの実態、社会の要請等

生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等に伴う厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら新しい価値を創造し、未来を切り開いていく力が必要。

### 新しい時代に必要なとなる資質・能力の育成

- ◆自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力
- ◆我が国の子供たちにとって今後重要と考えられる、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力、豊かな感性や優しさ、思いやり等

### 何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの  
学習評価の充実

アクティブラーニング

### 何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、自立して生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善 等

### どのように学ぶか

育成すべき資質・能力を育むための  
課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（「アクティブ・ラーニング」）

- ◆ ある事柄を知っているのみならず、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、主体的・協働的に探究し、成果等を表現していけるよう、学びの質や深まりを重視。

### 理念を実現する 環境作り

- ◆各学校のカリキュラム・マネジメント支援
- ◆新たな学習・指導方法や評価方法の更なる開発や普及を図るための支援

# (参考) 初等中等教育におけるアクティブ・ラーニングの取組例

## 言語活動の充実

### 国語科における取組例

身近な昔話とそのルーツとなった古典、関連する資料等を読み、内容や面白さについてまとめ、グループで紹介。また、他のグループの発表を聞き、自分が取り上げた古典と比較して、分かったことや考えたことなどを文章で表現する。

(写真下) 昔話のルーツについてグループで発表する様子



## ペア学習・グループ学習等の推進

ある課題を解決するため、複数の視点を設定し、分担して担当し、それぞれが作成した説明を話し合いにより統合することで答えを導き出す。さらに、各グループの答えと根拠をクラス全体で発表し合い、より深い理解へとつなげていく。(ジグソー法の例)

### 「知識構成型ジグソー法」

エキスパート ⇒ ジグソー  
3つの部品を統合的に活用して課題にアプローチ



育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会(第5回)資料1(三宅なほみ教授発表資料)より引用

## ICTの活用



空気でっぽうのしくみについて、実験を通じて玉が飛び出す様子を確認し、自分の考えを図に整理。それを、教師がタブレットPCで撮影し、いくつかの案を電子黒板に映して共有。学級全体の考えを分類し、自分の考えと比較していく。

(写真左) 考え方の違いを比較・検討する様子



タブレットPC、電子黒板などのICTを効果的に活用することにより、より分かりやすい授業が実現するとともに、個別学習や協働学習を通じて、子供たちの主体的な学びが可能となる。

(写真左) 自分の考えを発表し、話し合う様子

## 外部人材の活用等による学校・家庭・地域との連携

土曜日を活用し、地域住民・保護者等のボランティアや民間企業等からのゲストティーチャーの協力の下、多様な学習・体験活動等の機会を提供。

(写真右)  
環境学習の一環としての「エコ工作」



少子高齢・人口減少社会を支える力

# 人口減少社会を支えるための力

【アクティブラーニング】

第三次産業で働くことを前提

社会は常に変化することを考える

- ・知識の習得のみならず、**思考力・判断力・表現力**等や、主体性を持って**多様な人々**と協働することを通じて学習する態度を養う。

異年齢・価値観の異なる相手と接する活動

- ・主体的・協働的に**課題の発見・解決**に取り組み、学習したことを振り返る活動が重要。

予期せぬ出来事を乗り越えながら他者に貢献する力

# 静岡県富士宮市立内房小学校

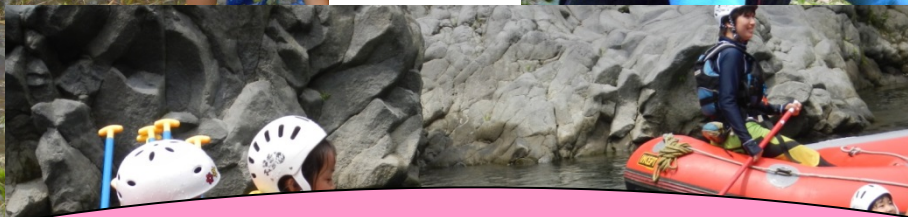


# 平成25年度 大規模校から小規模校への転勤

|       | 大規模校 | <u>小規模校</u> |
|-------|------|-------------|
| ①児童数  | 550人 | <u>45人</u>  |
| ②学級数  | 20学級 | <u>5学級</u>  |
| ③立地場所 | 市街地  | <u>周辺地域</u> |

# 静岡県富士宮市立内房小学校





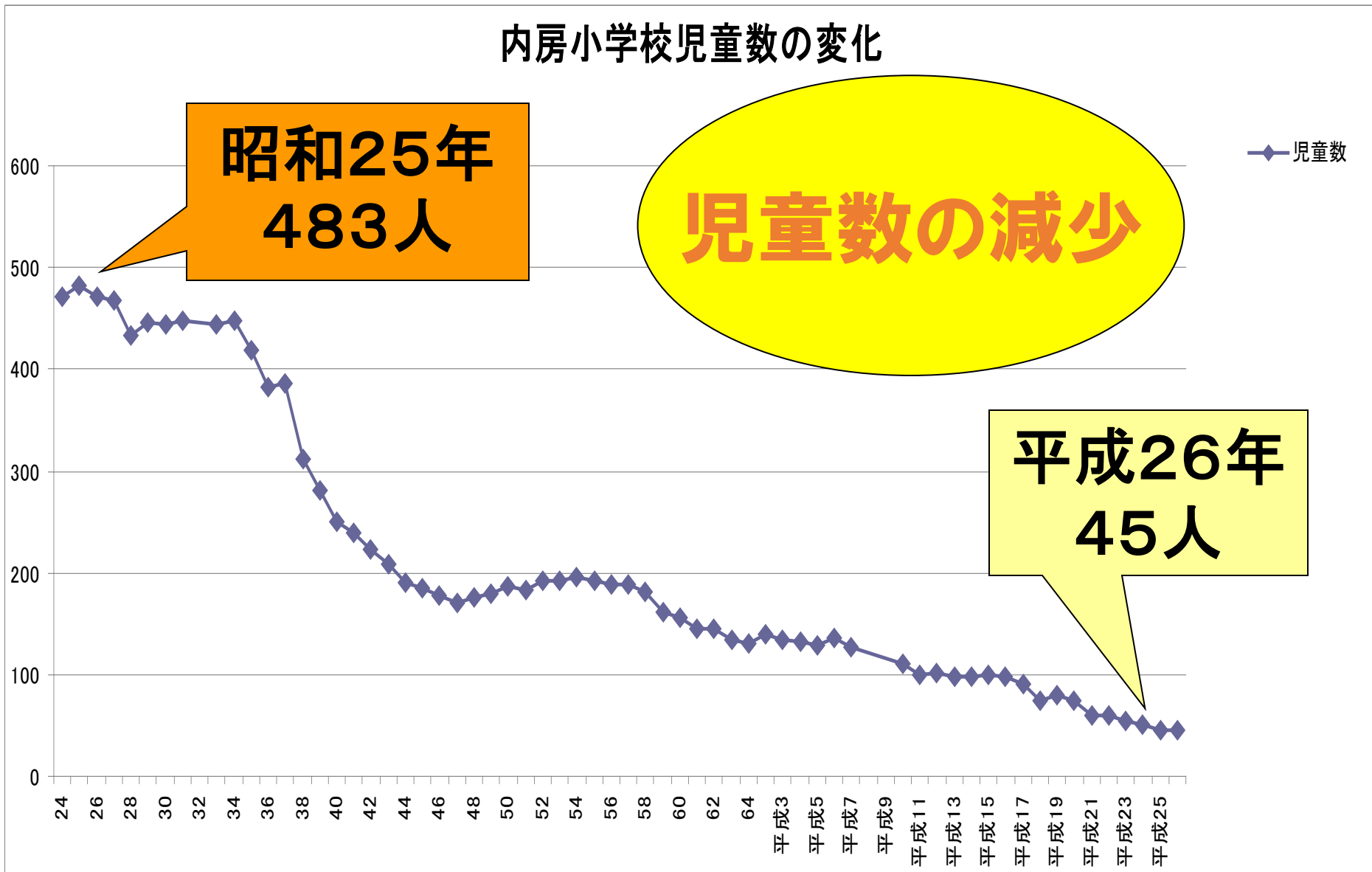
安全だけど手の入っていない場所

- ・ 異年齢による活動
- ・ 地域とつながる活動



# 内房小の児童数の変化

内房小学校児童数の変化



# 父親の職業

6割が第3次産業

**S38年(311人)**

**H26年(45人)**

**①第一次産業 48.2%**

**0%(0人)**

**②第二次産業 28.1%**

**37.8%(14人)**

**③第三次産業 21.4%**

**59.4%(22人)**

**④無職 2.3%**

**2.8%(1人)**

# 母親の職業

9割が第3次産業

平成26年(44人)

①第一次産業

0%(0人)

②第二次産業

2.8%(1人)

③第三次産業

88.8%(40人)

④無職

8.4%(3人)

# 小学校 第5学年 児童数10人

## 【4年生の総合】

川の生き物について学習した子供たちは

もっと川に  
いる虫について  
調べたいな。



水質について  
も調べたいな。

川の魚や虫を食  
べにくる鳥につい  
て調べてみたいな。

虫だけでなく魚  
についても調べた  
いな。

# 教師の願い

## 【教師の願い】

- ・ 社会が変化することを理解してほしい。
- ・ 予期しない問題に取り組んでほしい。
- ・ 立場の異なる相手に対応してほしい。
- ・ 他者に貢献する力を身に付けてほしい。

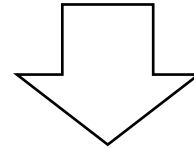
# 単元構想

## 【教師の願い】

- ・ 社会が変化することを理解してほしい。
- ・ 予期しない問題に取り組んでほしい。
- ・ 立場の異なる相手に対応してほしい。
- ・ 他者に貢献する力を身に付けてほしい。

## 【子供の思い】

- ・ 川に関することを調べたい。
- 虫・生き物・鳥・水質



## 単元名：川と人々との関わり

学区を流れる川を題材として、人々が川と関わりながら生活してきたことについて学習すれば、社会が変化してきたことや、川の災害から守るために人々が工夫してきたこと、地域の方の様々な意見に触れることができ、地域のために自分ができることは何か考えることができるだろう。

※社会科の「農業生産を支える人々」の学習から出発

- ①稲作の体験からお米に関心をもつ。
- ②川舟で使って、お米を運んでいたことに気付く。
- ③川舟を調査しようとする課題意識をもつ
- ④川舟や人々の生活について追究する。
  - ・復元された川舟を見学する。
  - ・川舟について、本や資料を基にして調べる。
  - ・川舟(渡船)で川を渡っていた場所を調査する。
  - ・川舟を使って生活していた頃の人々の生活について話し合う。
- ⑤橋を渡って生活している私たちの生活とこれからの生活について話し合う。
  - ・市の方に、川や道路整備について聞き取る。
  - ・区長さんの話を聞き取る。

ここまでは計画通りに進んだが・・・。

# ①稲作体験

## 田植え



## 稲刈り



## 干す



## 脱穀



②お米を舟で運んでいたことに気付く。

どうやって、お米を運んでいたのかな。

電車かな

船かな



川舟でお米を運んでいたんだ。

川舟

1607年

電車

1920(大正9)年



### ③川舟に関心をもつ

Sさんの創造図



## ④川舟や人々の生活を追究する

- ・途中で大きい船にお米を積み替える。
- ・1週間もかけて江戸まで運んだ。



# 復元された川舟の見学

こんなに大きいんだな。



# 川舟の大きさを実感

昔の人はすごいな。



平成26年 10月 台風18号

橋が  
流された。

# 向島橋



# 落合前橋



## ⑤立場の異なる相手への聞き取り調査



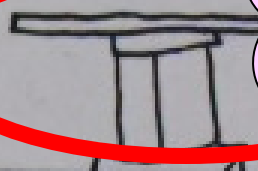
駐在所の  
お巡りさん



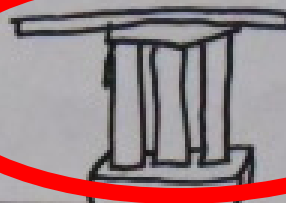
県の土木関係者

## ⑥他の橋桁の調査

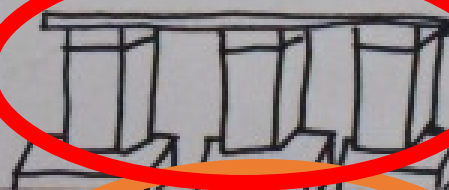
稲瀬川橋



落合前橋



廻沢橋



ダイナ橋



橋げたが無い

大和橋



橋げたが無い

他の橋は  
流されな  
いかな。

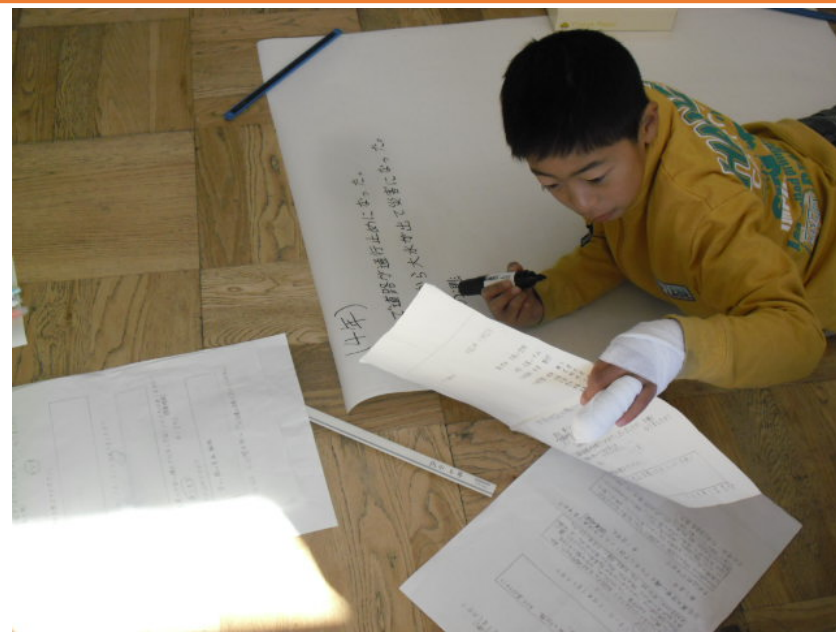
## ⑦内房地区の災害の歴史調べ

|      |                                                                                                         |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1705 | 塩出で山くずれがおきて35人が死亡する。                                                                                    |
| 1707 | 宝永のふん火がおこり橋上で8人が死亡する。                                                                                   |
| 1854 | 大地しんがおこり橋上で6人が死亡する。                                                                                     |
| 1874 | 大雨のため <sup>かせん</sup> 河川がはんらんし祥禪寺などが流される。                                                                |
| 1900 | 台風のため各地で被害が <sup>おこる</sup> 相沼で3人が死亡する。                                                                  |
| 1904 | 芝川が <sup>あつ</sup> 氷のためはんらんし芝川に <sup>かか</sup> てた橋が全部流される。                                                |
| 1982 | 台風10号のため稲瀬川や境川がはんらんし内房で<br>家が <sup>つぶ</sup> れ <sup>たり</sup> した。田畑が <sup>ぬ</sup> れた。こ <sup>ろ</sup> たりする。 |

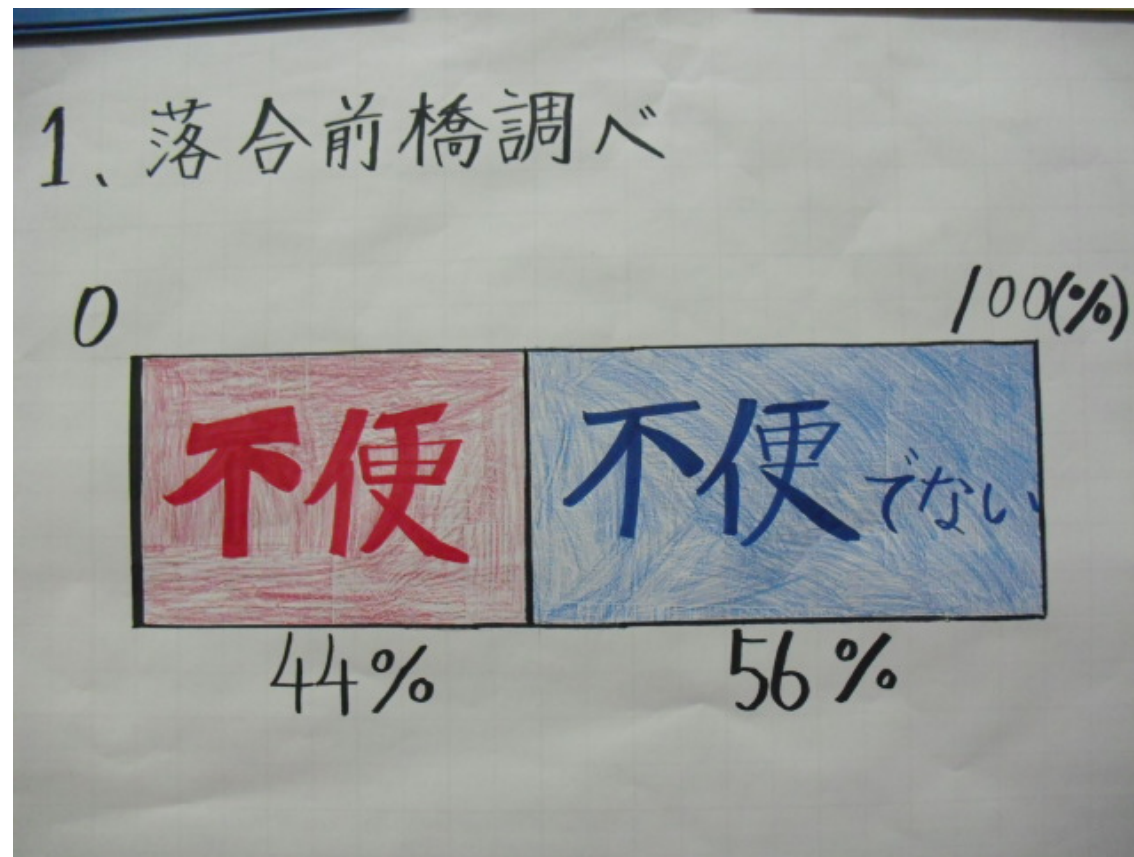
昔から人々は、水害に苦しんできたんだな。

## ⑧アンケート調査（回答者数34名）

1. 落合前橋が流されて、不便と感じているか
2. 向島橋が流されて、不便と感じているか
3. 台風のとときにこまったことはないか
4. 災害に備えて直してほしいところはどこか

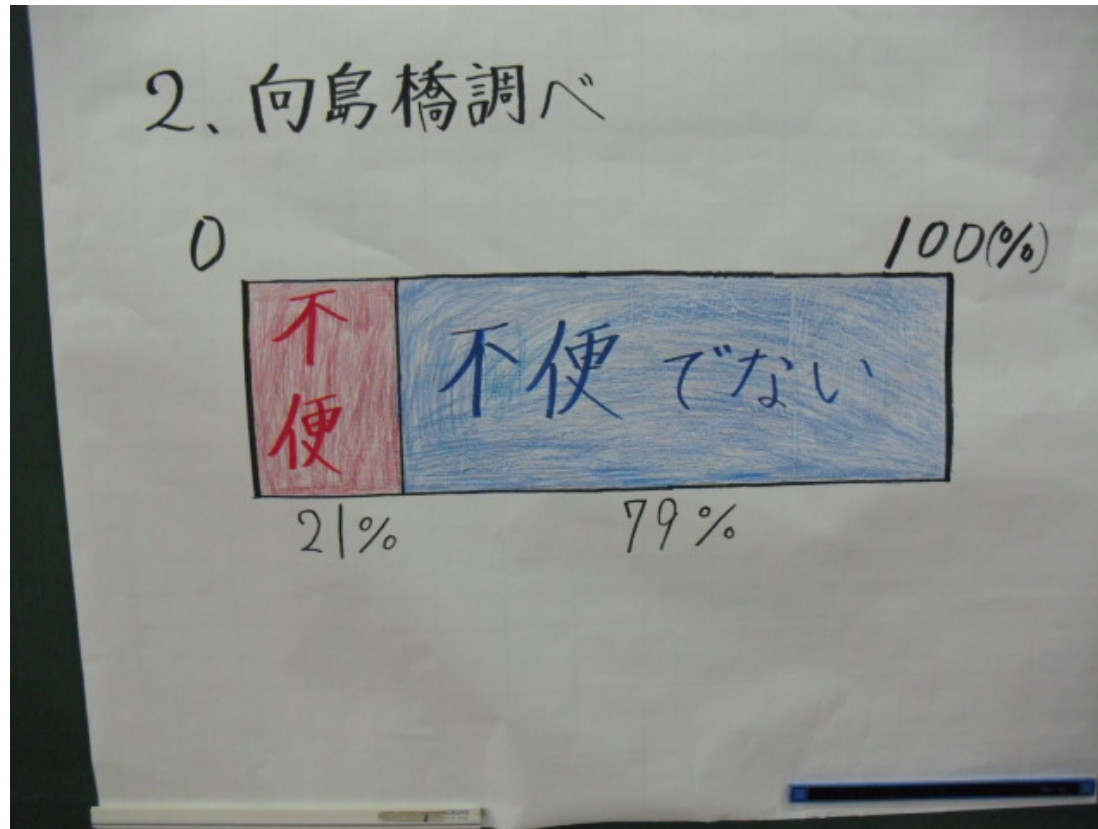


# 1. 落合前橋が流されて不便と感じているか。



不便である : 遠回りをしなくてはならないから。  
不便ではない : 通ることがないから。

## 2. 向島橋が流されて、不便と感じているか。

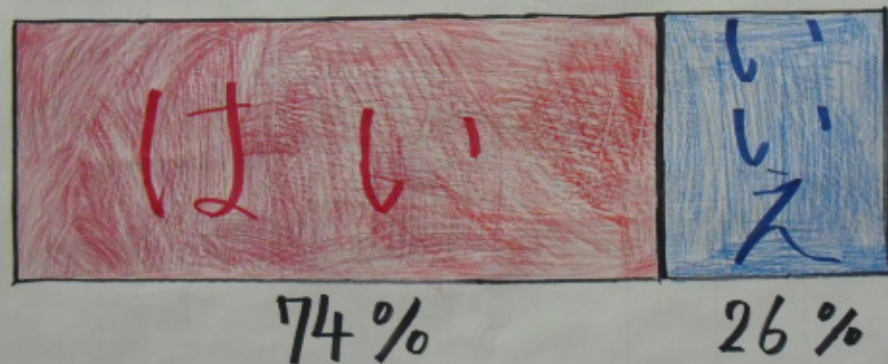


不便である : 散歩ができなくなったから。

不便ではない : 通ることがないから。

### 3. 台風のときのこまったこと調べ

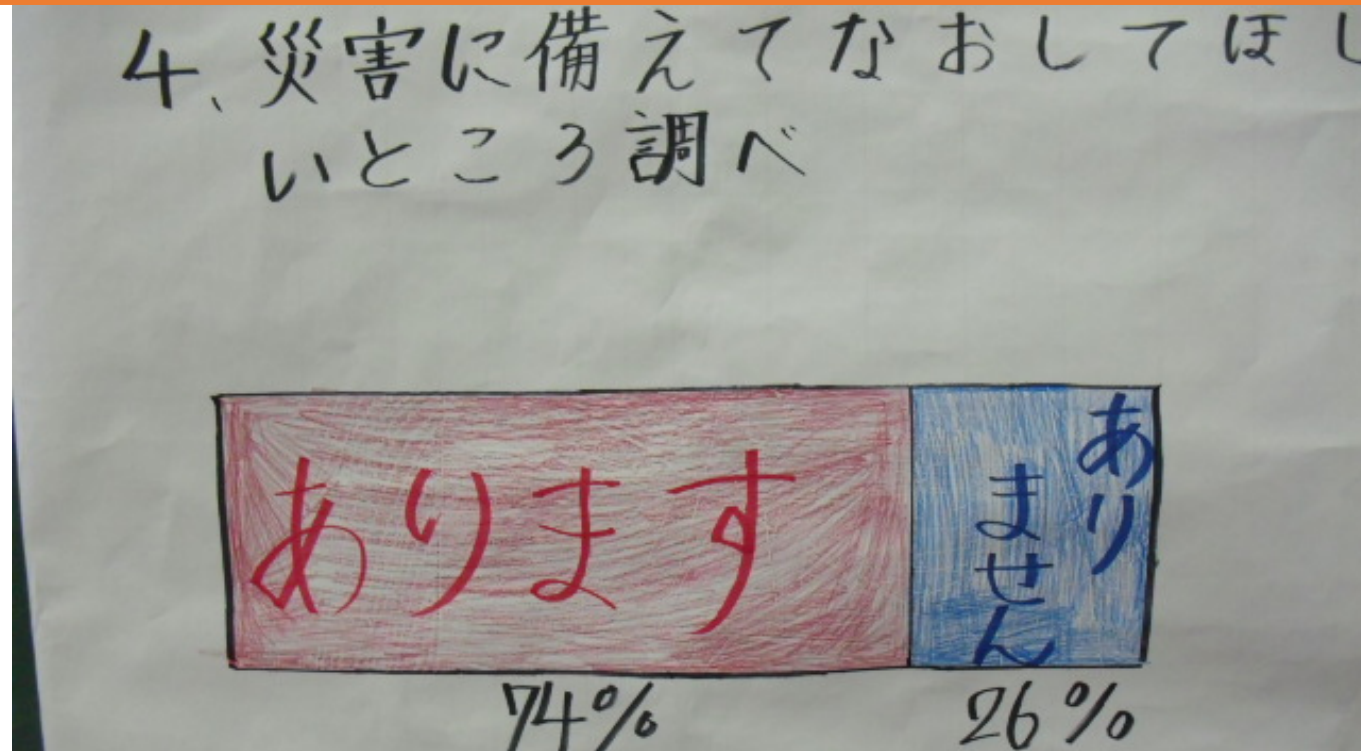
3. 台風のときのこまったこと  
調べ



困ったこと

- ・道路を通れなくなった。
- ・車庫や車の中に水が入ってしまった。

## 4. 災害に備えてなおしてほしいところ調べ



- ・橋の強化
- ・橋の建て替え
- ・橋の点検
- ・橋げたにたまったゴミの片付け
- ・土のうの用意
- ・土砂災害への備え

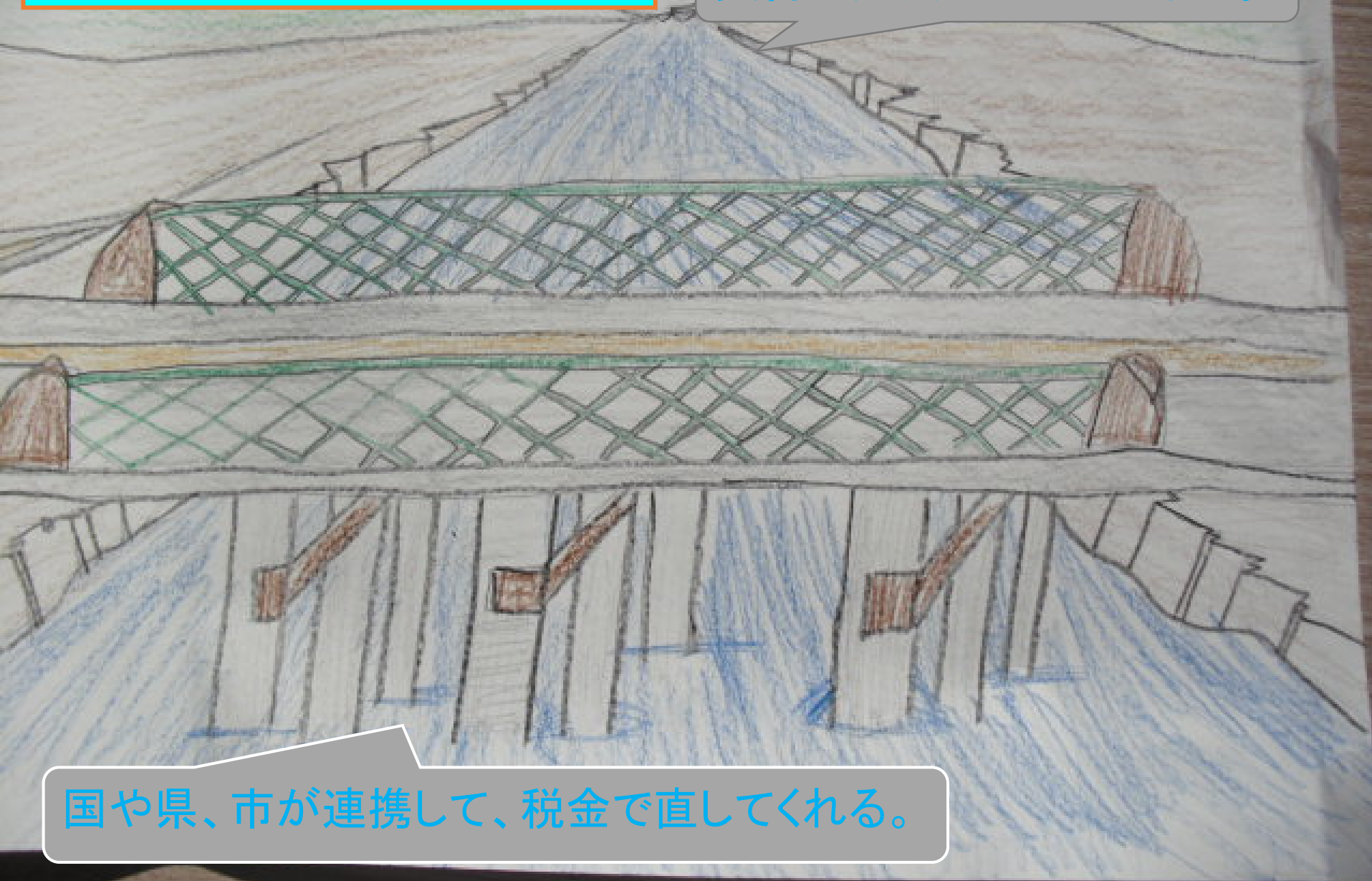
## ⑨市役所の方への聞き取り



1. 災害なので国の予算で直す。
2. 災害の前と同じ大きさの橋を造る。
3. 土台から造り直す。
4. 税金で直す。

## ⑩パンフレット作り

災害は過去のことではない。



国や県、市が連携して、税金で直してくれる。

# 指導計画の修正

※社会科の「農業生産を支える人々」の学習の発展として

①稲作の体験からお米に関心をもつ。

②川舟で使って、お米を運んでいたことに気付く。

③川舟を調査しようとする課題意識をもつ。

④川舟や人々の生活について追究する。

・復元された川舟を見学する。

・川舟について、本や資料を基にして調べる。

・川舟(渡船)で川を渡っていた場所を調査する。

・川舟を使っていた人々の生活に合う。

⑤橋を渡って私たちの生活とこれからの生活について話し合う。

・市の方に、川や道路整備について聞き取る。

・区長さんの話を聞き取る。

橋桁の調査

災害調べ

聞き取り調査

アンケート調査

聞き取り調査

パンフレット作り

橋が  
流された

# 成果と課題

## (成果)

- 橋の調査や水害調べを通して、社会が変化することを理解することができた。
- 異なる考え方や立場の方の意見を聞き、自分の考えを深めることができた。
- 単元を修正したことにより、子供たちは予期せぬ問題の解決に向かって活動することができた。
- 地域の事象の中にこそ、少子高齢人口減少社会を生きる力を育む学習材があることが分かった。

## (課題)

- 税で他者に貢献することを深く学ぶことはできなかった。
- 総合的な学習だけでなく、教育課程全体で少子高齢人口減少社会を支える力を育む必要がある。

総合・生活科・社会科だけでなく、教育課程全体で

社会

総合

生活科

算数

少子高齢人口減少社会を支える子を育む力

国語

家庭科

特別活動

道徳

少子高齢・人口減少社会を支える力の育成を

## 例えば・・・

- 国語： 少子高齢・人口減少社会について考えた作文  
を書く学習
- 算数： 異なる考えの相手に自分の意見を主張する  
学習
- 家庭科： 家事のスタイルが加齢と共に変化すること  
を考える学習
- 特別活動： 高齢者や異年齢、地域の方と触れ合う活動
- 道徳： 異なる考えや価値観に多く気付くことができ  
る学習

・少子高齢・人口減少社会はもう  
始まっています。

**必要な力を  
育成するのは今です。**

# 理論編

## 少子高齢・人口減少社会を支える子を育む 生活科・総合的な学習の時間の課題VI

### — 子ども子育て支援新制度実施過程から見てきたこと —

静岡大学名誉教授  
静岡大学教育学部  
静岡県富士宮市立内房小学校  
静岡県焼津市立黒石小学校  
静岡県伊東市立大池小学校  
秋田県秋田市立高清水小学校

馬居 政幸  
田宮 縁  
米津 英郎  
新村 弘道  
佐藤久美子  
渡部 和則

図1 年齢3区分(年少、生産、老年)別人口数の推移1960～2060

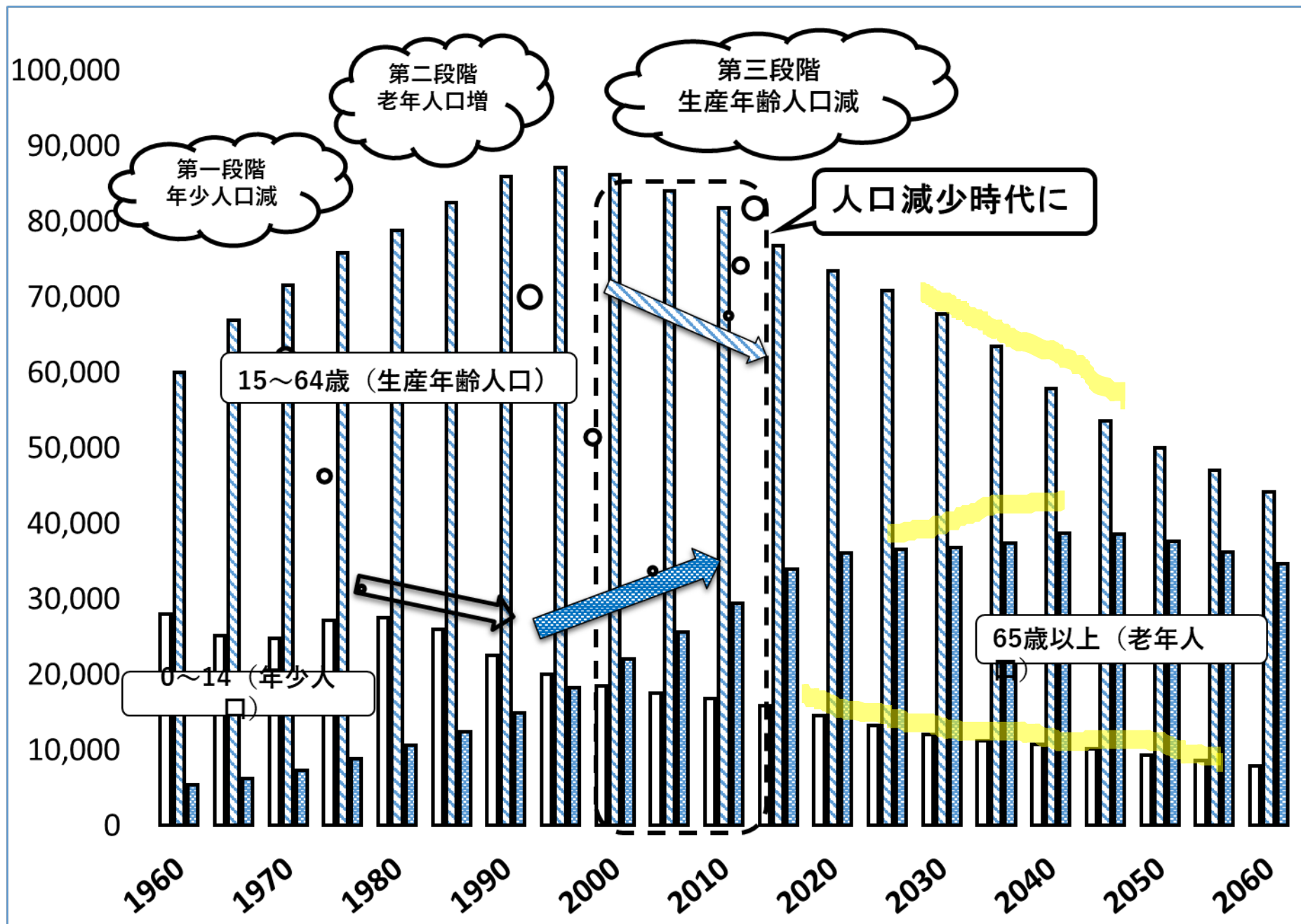
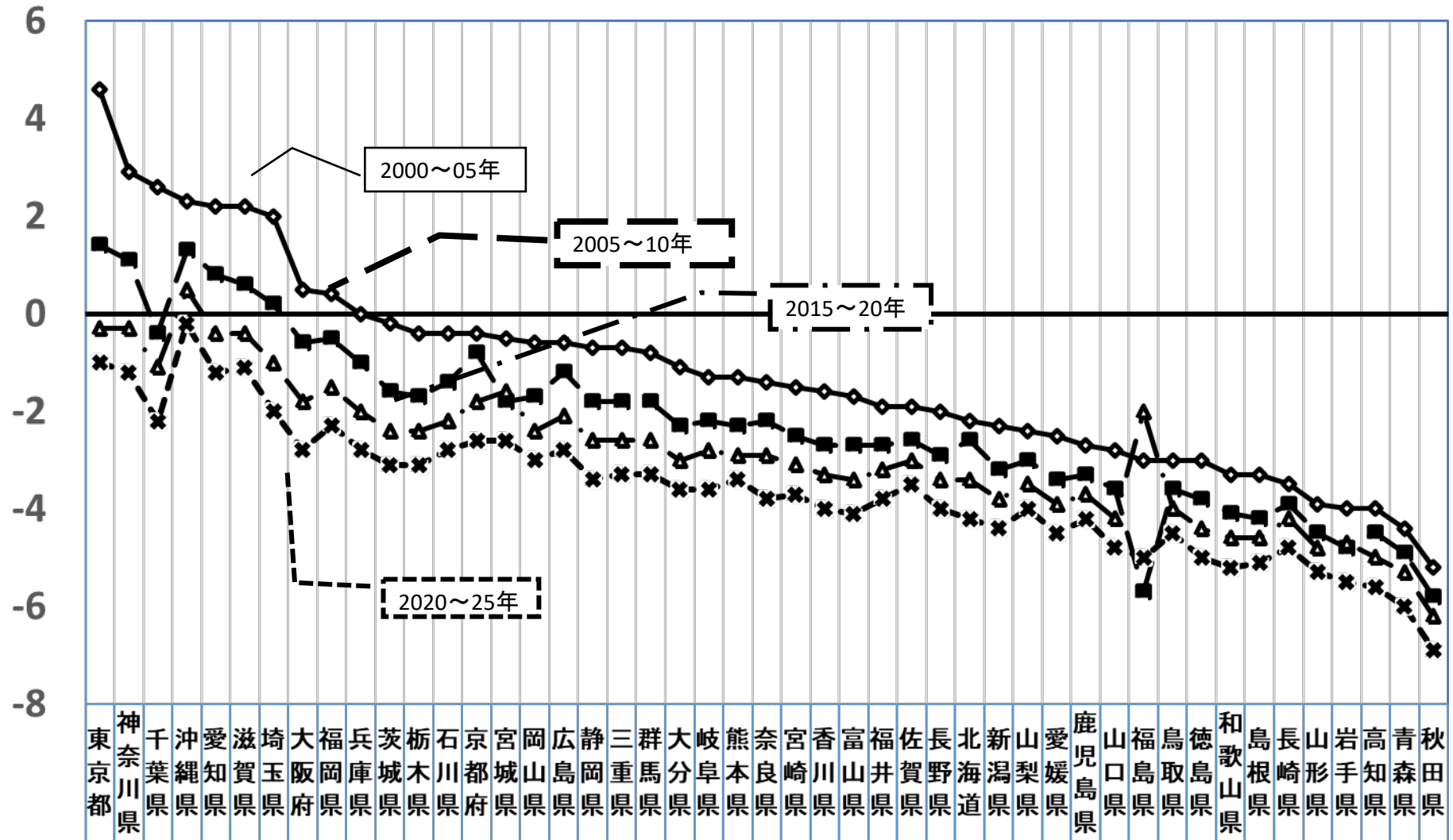


図2 都道府県別総人口増減率 2005～10年 10～05年 05～20年 20～25年



『日本の地域別将来推計人口』(平成25年3月推計)』平成25年3月 国立社会保障・人口問題研究所 15頁「表Ⅱ-2 都道府県別総人口の増加率」より馬居作成

図3 都道府県別15－64歳と65歳以上人口 2010年、2040年

図1

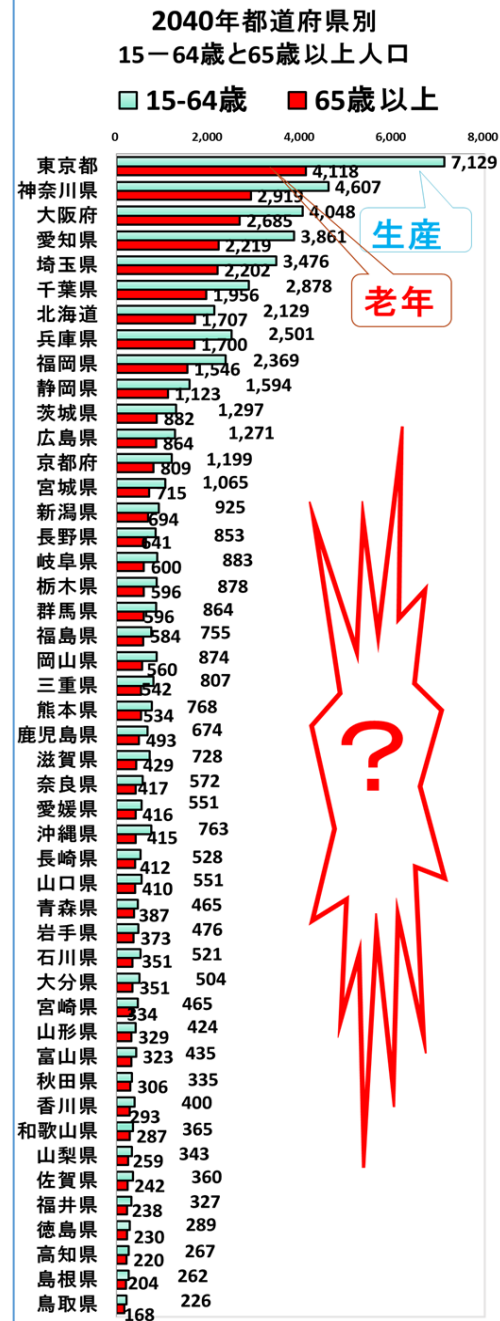
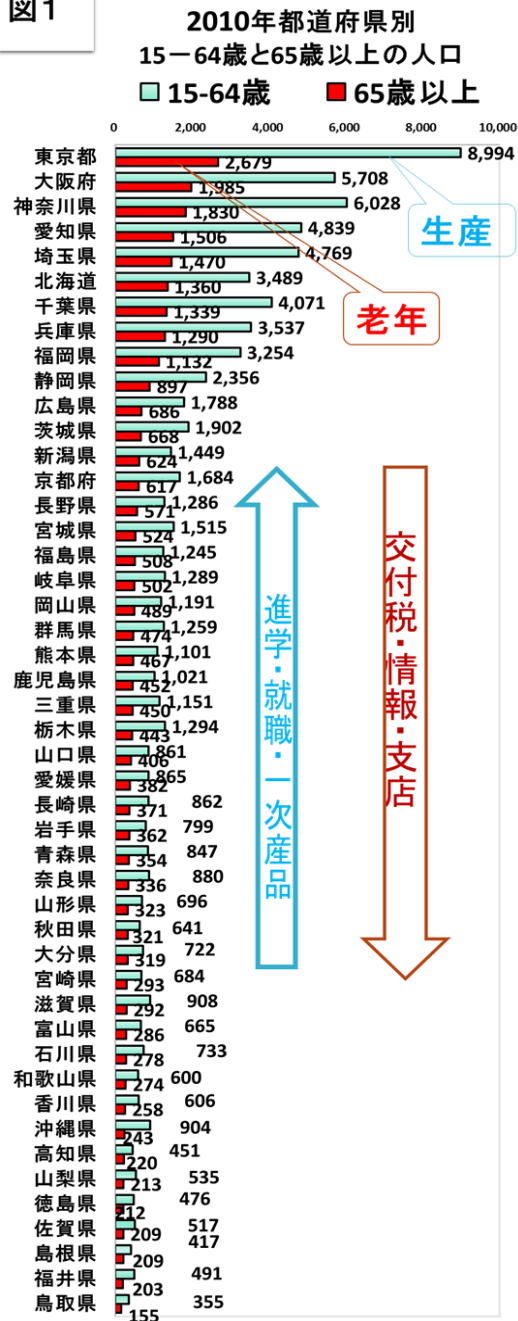


表1 生産年齢(15-64歳)人口と老年人口(65歳以上)の対比 2010年、2025年、2040年

|      |      | 2010年  |       |       |            | 2025年 |        |       |       |            | 2040年 |        |       |       |            |
|------|------|--------|-------|-------|------------|-------|--------|-------|-------|------------|-------|--------|-------|-------|------------|
| 上位十傑 |      | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |       | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |       | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |
|      | 東京都  | 8,994  | 2,679 | 6,315 | 3.4        | 東京都   | 8,544  | 3,322 | 5,222 | 2.6        | 東京都   | 7,129  | 4,118 | 3,011 | 1.7        |
|      | 大阪府  | 5,708  | 1,985 | 3,723 | 2.9        | 大阪府   | 5,048  | 2,457 | 2,591 | 2.1        | 神奈川県  | 4,607  | 2,919 | 1,688 | 1.6        |
|      | 神奈川県 | 6,028  | 1,830 | 4,198 | 3.3        | 神奈川県  | 5,578  | 2,448 | 3,130 | 2.3        | 大阪府   | 4,048  | 2,685 | 1,364 | 1.5        |
|      | 愛知県  | 4,839  | 1,506 | 3,333 | 3.2        | 埼玉県   | 4,244  | 1,982 | 2,262 | 2.1        | 愛知県   | 3,861  | 2,219 | 1,641 | 1.7        |
|      | 埼玉県  | 4,769  | 1,470 | 3,299 | 3.2        | 愛知県   | 4,504  | 1,943 | 2,560 | 2.3        | 埼玉県   | 3,476  | 2,202 | 1,274 | 1.6        |
|      | 北海道  | 3,489  | 1,360 | 2,128 | 2.6        | 千葉県   | 3,541  | 1,798 | 1,743 | 2.0        | 千葉県   | 2,878  | 1,956 | 921   | 1.5        |
|      | 千葉県  | 4,071  | 1,339 | 2,732 | 3.0        | 北海道   | 2,774  | 1,716 | 1,058 | 1.6        | 北海道   | 2,129  | 1,707 | 422   | 1.2        |
|      | 兵庫県  | 3,537  | 1,290 | 2,247 | 2.7        | 兵庫県   | 3,083  | 1,600 | 1,484 | 1.9        | 兵庫県   | 2,501  | 1,700 | 801   | 1.5        |
|      | 福岡県  | 3,254  | 1,132 | 2,121 | 2.9        | 福岡県   | 2,809  | 1,481 | 1,328 | 1.9        | 福岡県   | 2,369  | 1,546 | 824   | 1.5        |
|      | 静岡県  | 2,356  | 897   | 1,459 | 2.6        | 静岡県   | 1,985  | 1,101 | 884   | 1.8        | 静岡県   | 1,594  | 1,123 | 471   | 1.4        |
| 下位十傑 |      | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |       | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |       | A15-64 | B65以上 | A-B   | $A \div B$ |
|      | 和歌山県 | 600    | 274   | 168   | 2.2        | 富山県   | 549    | 332   | 218   | 1.7        | 秋田県   | 335    | 306   | 29    | 1.1        |
|      | 香川県  | 606    | 258   | 184   | 2.4        | 香川県   | 496    | 304   | 192   | 1.6        | 香川県   | 400    | 293   | 107   | 1.4        |
|      | 沖縄県  | 904    | 243   | 199   | 3.7        | 和歌山県  | 478    | 303   | 175   | 1.6        | 和歌山県  | 365    | 287   | 78    | 1.3        |
|      | 高知県  | 451    | 220   | 222   | 2.0        | 山梨県   | 442    | 252   | 189   | 1.7        | 山梨県   | 343    | 259   | 84    | 1.3        |
|      | 山梨県  | 535    | 213   | 229   | 2.5        | 佐賀県   | 429    | 251   | 178   | 1.7        | 佐賀県   | 360    | 242   | 118   | 1.5        |
|      | 徳島県  | 476    | 212   | 230   | 2.2        | 徳島県   | 371    | 246   | 125   | 1.5        | 福井県   | 327    | 238   | 90    | 1.4        |
|      | 佐賀県  | 517    | 209   | 233   | 2.5        | 高知県   | 348    | 242   | 106   | 1.4        | 徳島県   | 289    | 230   | 59    | 1.3        |
|      | 島根県  | 417    | 209   | 233   | 2.0        | 福井県   | 407    | 240   | 167   | 1.7        | 高知県   | 267    | 220   | 48    | 1.2        |
|      | 福井県  | 491    | 203   | 239   | 2.4        | 島根県   | 327    | 226   | 101   | 1.4        | 島根県   | 262    | 204   | 59    | 1.3        |
|      | 鳥取県  | 355    | 155   | 287   | 2.3        | 鳥取県   | 282    | 179   | 103   | 1.6        | 鳥取県   | 226    | 168   | 58    | 1.3        |

表2

## 都道府県別75歳以上人口の比と65・75割合 2010年、2025年、2040年

|      | 2010年 |       |      |      |      | 2025年 |       |      |      |      | 2040年 |       |      |      |      |
|------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|
| 上位十傑 |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |
|      | 東京都   | 1,234 | 20.4 | 9.4  | 46.1 | 東京都   | 1,977 | 25.2 | 15   | 59.5 | 東京都   | 2,139 | 33.5 | 17.4 | 52.0 |
|      | 大阪府   | 843   | 22.4 | 9.5  | 42.5 | 神奈川県  | 1,528 | 29.2 | 18.2 | 62.2 | 神奈川県  | 1,592 | 35.0 | 19.1 | 54.6 |
|      | 神奈川県  | 794   | 20.2 | 8.8  | 43.4 | 大阪府   | 1,485 | 27.2 | 16.5 | 60.7 | 大阪府   | 1,472 | 36.0 | 19.7 | 54.8 |
|      | 埼玉県   | 660   | 20.3 | 8.9  | 43.8 | 愛知県   | 1,177 | 28.4 | 16.8 | 59.4 | 愛知県   | 1,203 | 32.4 | 17.6 | 54.2 |
|      | 愛知県   | 589   | 20.4 | 8.2  | 40.1 | 埼玉県   | 1,166 | 26.4 | 15.9 | 60.0 | 埼玉県   | 1,198 | 34.9 | 19.0 | 54.4 |
|      | 千葉県   | 671   | 24.7 | 12.2 | 49.4 | 千葉県   | 1,082 | 30   | 18.1 | 60.2 | 千葉県   | 1,095 | 36.5 | 20.4 | 56.0 |
|      | 北海道   | 563   | 21.5 | 9.1  | 42.0 | 北海道   | 1,024 | 34.6 | 20.6 | 59.7 | 北海道   | 1,050 | 40.7 | 25.1 | 61.5 |
|      | 兵庫県   | 604   | 23.1 | 10.8 | 46.9 | 兵庫県   | 966   | 30.4 | 18.3 | 60.4 | 兵庫県   | 968   | 36.4 | 20.7 | 56.9 |
|      | 福岡県   | 558   | 22.3 | 11.0 | 49.2 | 福岡県   | 869   | 30.5 | 17.9 | 58.7 | 福岡県   | 916   | 35.3 | 20.9 | 59.2 |
|      | 静岡県   | 432   | 23.8 | 11.5 | 48.2 | 静岡県   | 655   | 31.6 | 18.8 | 59.4 | 静岡県   | 657   | 37.0 | 21.6 | 58.5 |
| 下位十傑 |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |       | C75以上 | B割合  | C割合  | C÷B  |
|      | 富山県   | 141   | 27.4 | 14.0 | 51.3 | 秋田県   | 206   | 33.6 | 20.8 | 62.0 | 秋田県   | 199   | 43.8 | 28.4 | 65.0 |
|      | 香川県   | 137   | 25.9 | 13.7 | 53.1 | 香川県   | 183   | 33.8 | 20.4 | 60.4 | 香川県   | 175   | 37.9 | 22.7 | 59.7 |
|      | 和歌山県  | 121   | 17.4 | 8.7  | 50.1 | 和歌山県  | 184   | 34.8 | 21.1 | 60.7 | 和歌山県  | 173   | 39.9 | 24.1 | 60.4 |
|      | 山梨県   | 122   | 28.8 | 15.9 | 55.2 | 山梨県   | 149   | 32.5 | 19.1 | 58.9 | 山梨県   | 155   | 38.8 | 23.2 | 59.8 |
|      | 佐賀県   | 111   | 24.7 | 12.8 | 52.1 | 佐賀県   | 143   | 32.4 | 18.4 | 56.8 | 佐賀県   | 151   | 35.5 | 22.1 | 62.4 |
|      | 徳島県   | 115   | 27.0 | 14.7 | 54.4 | 福井県   | 146   | 35.8 | 21.3 | 59.4 | 福井県   | 145   | 37.5 | 22.9 | 61.0 |
|      | 高知県   | 114   | 24.6 | 13.4 | 54.3 | 徳島県   | 149   | 36.9 | 22.7 | 61.6 | 徳島県   | 143   | 40.2 | 25.0 | 62.1 |
|      | 福井県   | 119   | 29.1 | 16.6 | 57.3 | 高知県   | 143   | 32.8 | 19.5 | 59.5 | 高知県   | 138   | 40.9 | 25.7 | 62.7 |
|      | 島根県   | 109   | 25.2 | 13.5 | 53.6 | 島根県   | 137   | 36.4 | 22.1 | 60.7 | 島根県   | 129   | 39.1 | 24.7 | 63.3 |
|      | 鳥取県   | 86    | 26.4 | 14.6 | 55.4 | 鳥取県   | 105   | 34.4 | 20.2 | 58.6 | 鳥取県   | 106   | 38.2 | 23.9 | 62.7 |

図6 生産年齢人口(15-64)÷老年人口(65以上) 2012年 2025年 2040年

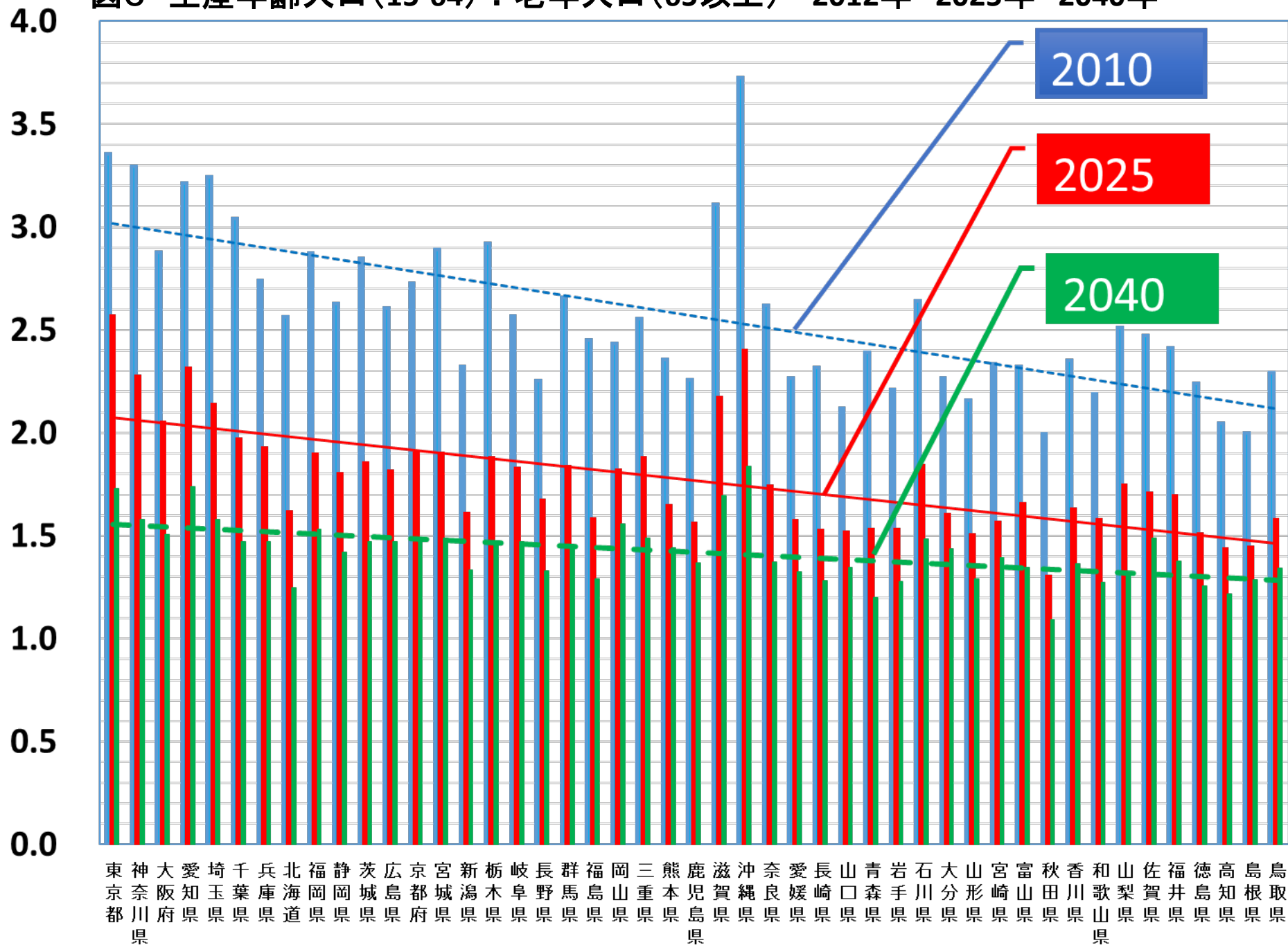


図7 日本創成会議による消滅危惧自治体の県別割合

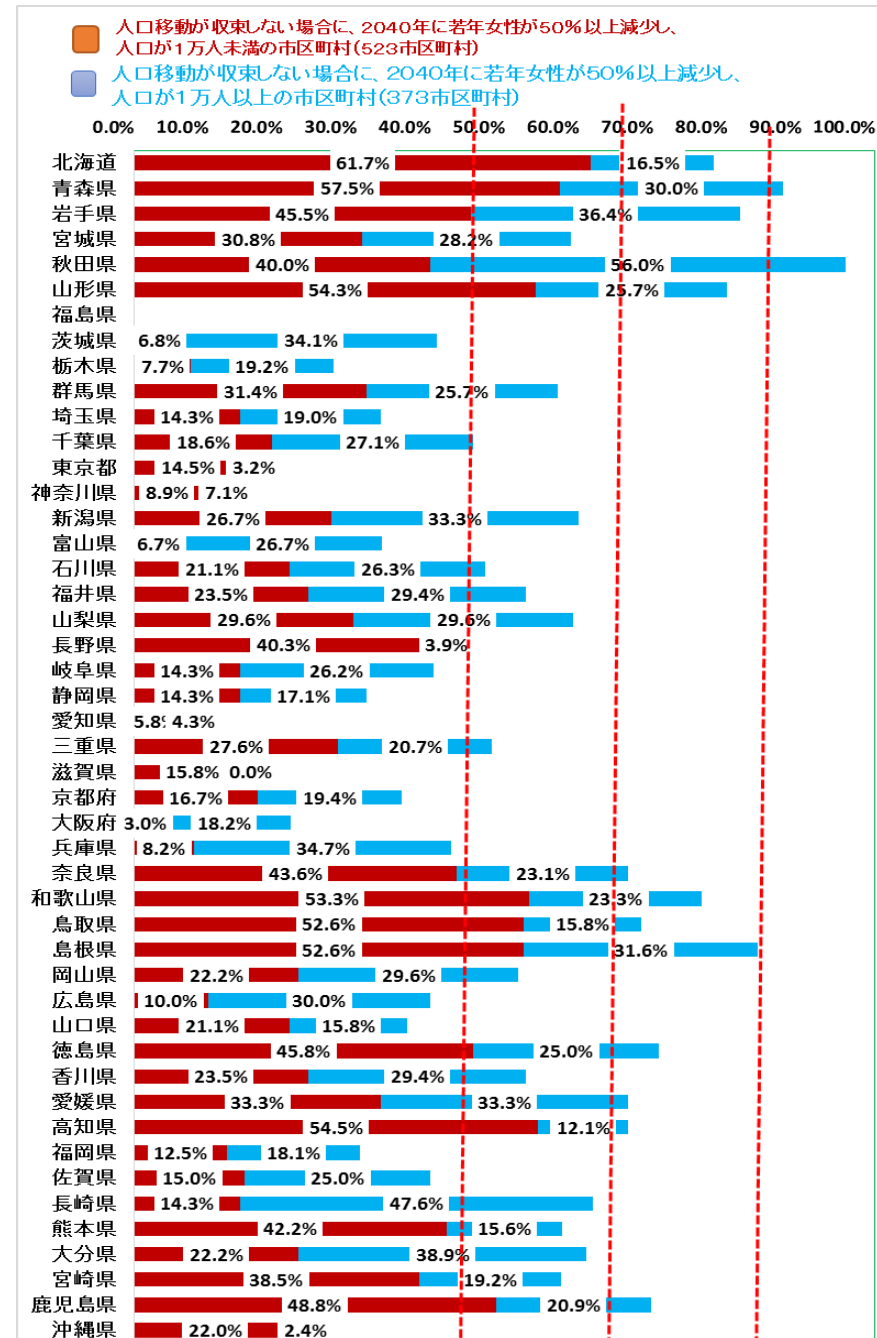


図8 人口ピラミッド比較(2005年国勢調査)

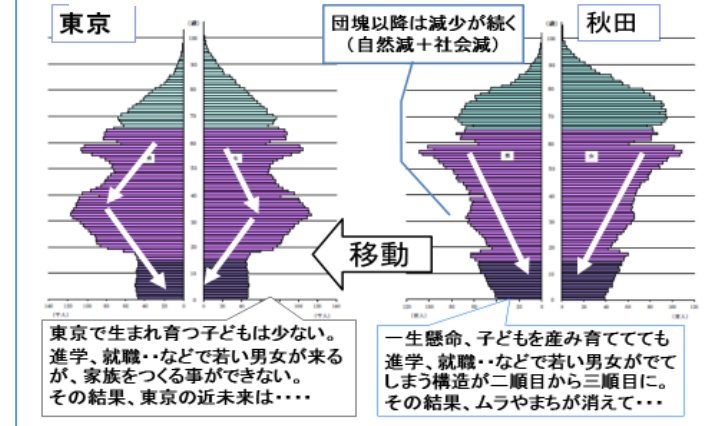


表3「人口減少社会への転換の経緯」

- i 工業化：高度成長前期60～70年代
  - ⇒戦後1回目の青年層(団塊)の都市部の社会移動
  - 都市小家族(核家族)の激増
  - 都市郊外ニュータウン→職住分離
  - 日本版近代家族成立(サラリーマンの夫、専業主婦の妻、子ども二人学校中心)
  - 団塊の世代によるニューファミリー
  - 社会制度設計の家族モデルに
- ii 情報化：高度成長後期80年代
  - ⇒戦後2回目の青年層(少産)の都市部への移動
  - 産業のサービス化+男女雇用均等法
  - 未婚青年層+夫婦のみ中年層の漸増
- iii グローバル化(脱高度成長模索期：90年代)
  - ⇒脱日本型経営→デフレスパイラルに
  - 晩婚化による少子化の顕在化(1.57ショック)
  - ⇒高齢化率13%を超え高齢社会に転換
- iv ICT化(経済復活模索期、大競争時代勃発期00年代)
  - ⇒戦後3回目の青年層(団塊ジュニア)の都市部への社会移動
  - 単身青年男女+夫婦のみ・単身高齢者の増加
  - 血縁・地縁から疎遠な単身者(単独世帯)
  - 世帯別割合の最大グループに……!
  - ⇒2005年国勢調査により人口減少社会への転換を確認

図11 産業別従業者比率の変遷(国勢調査1960～2010)

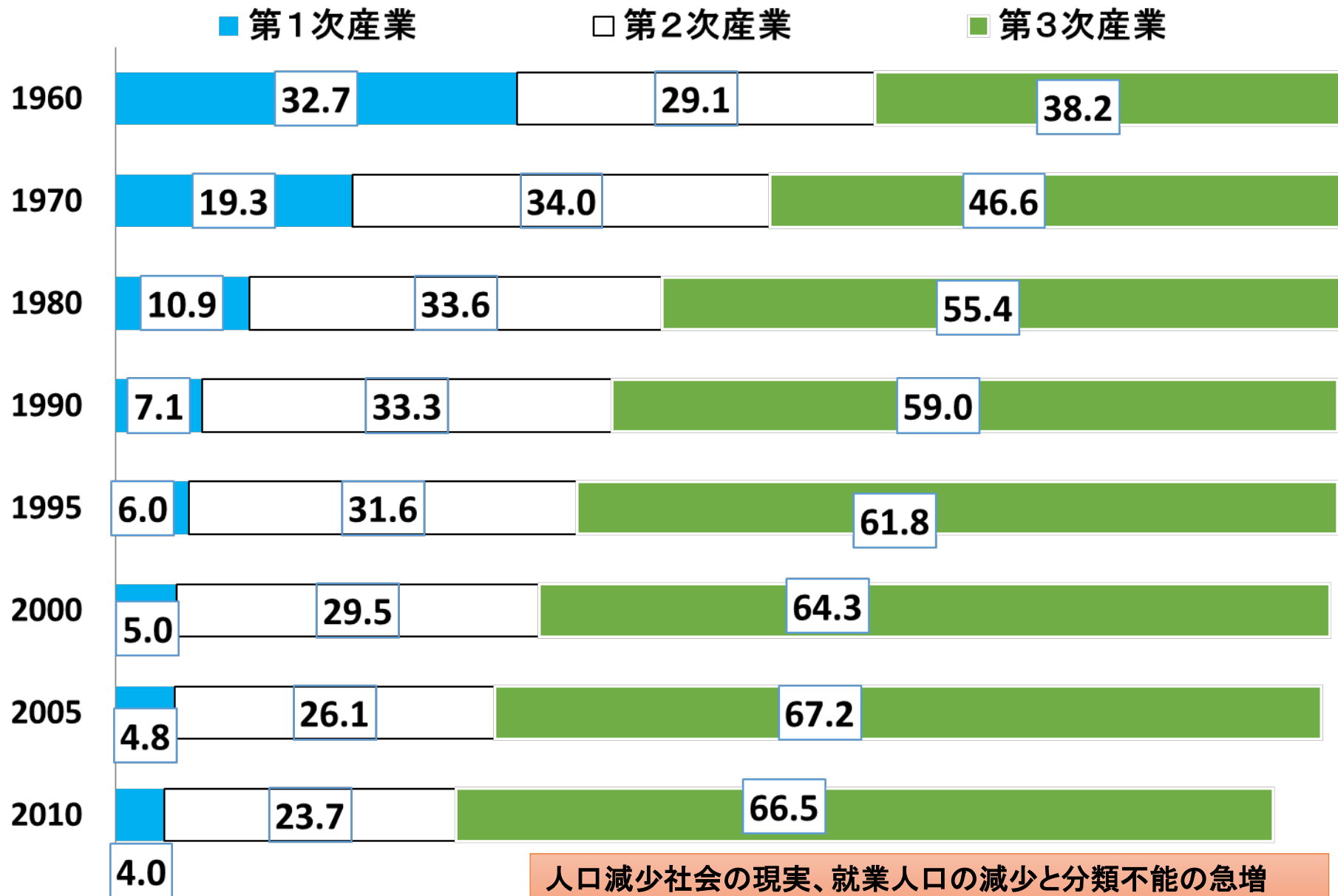
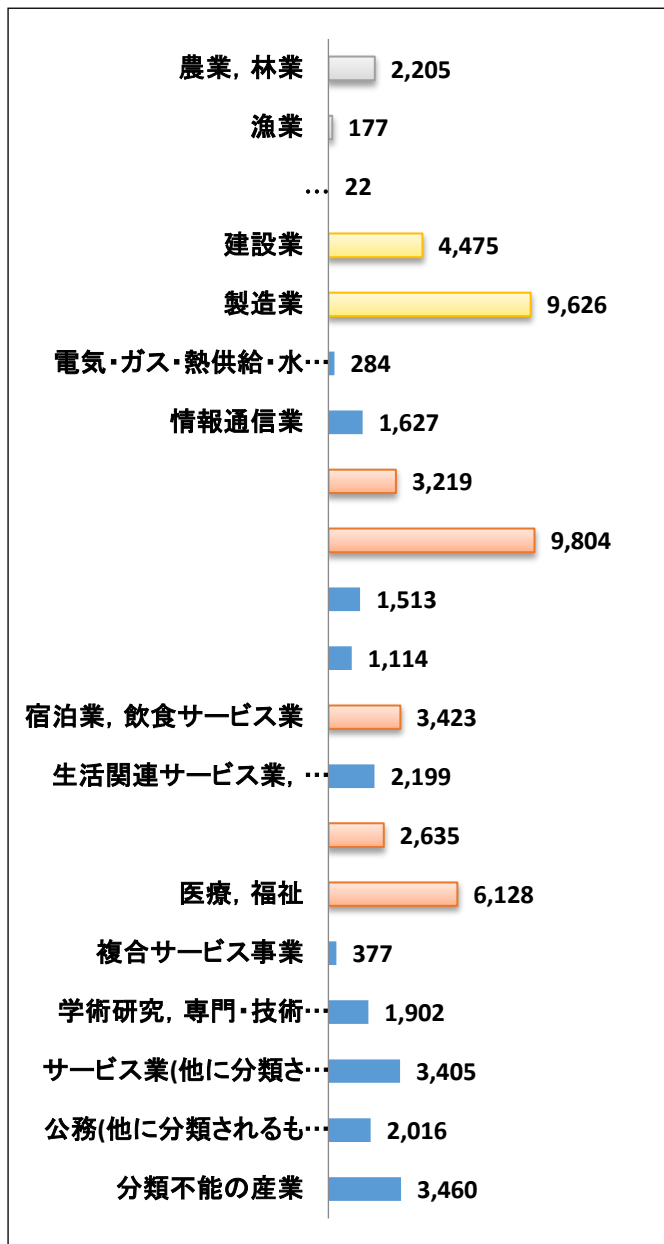
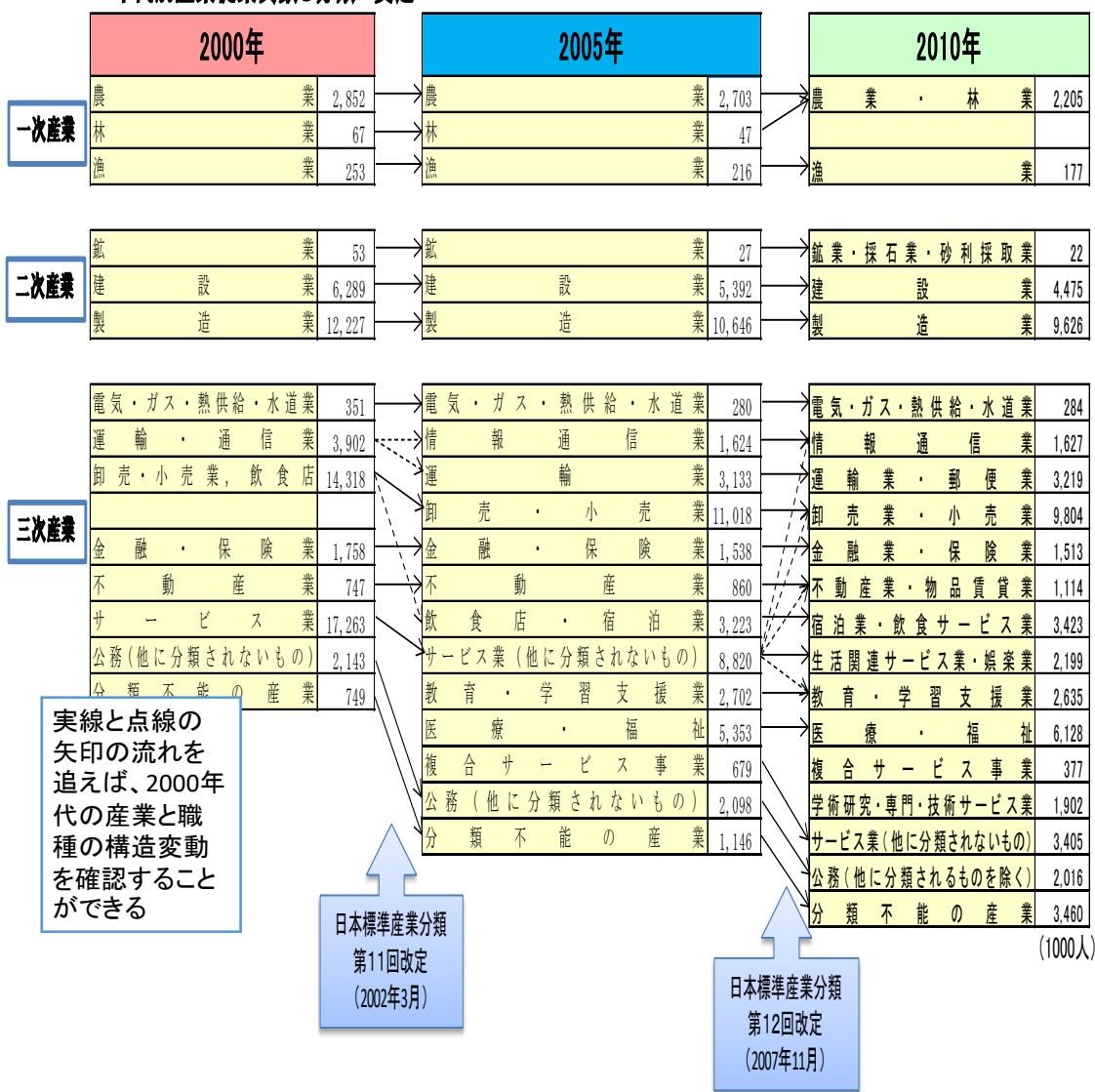
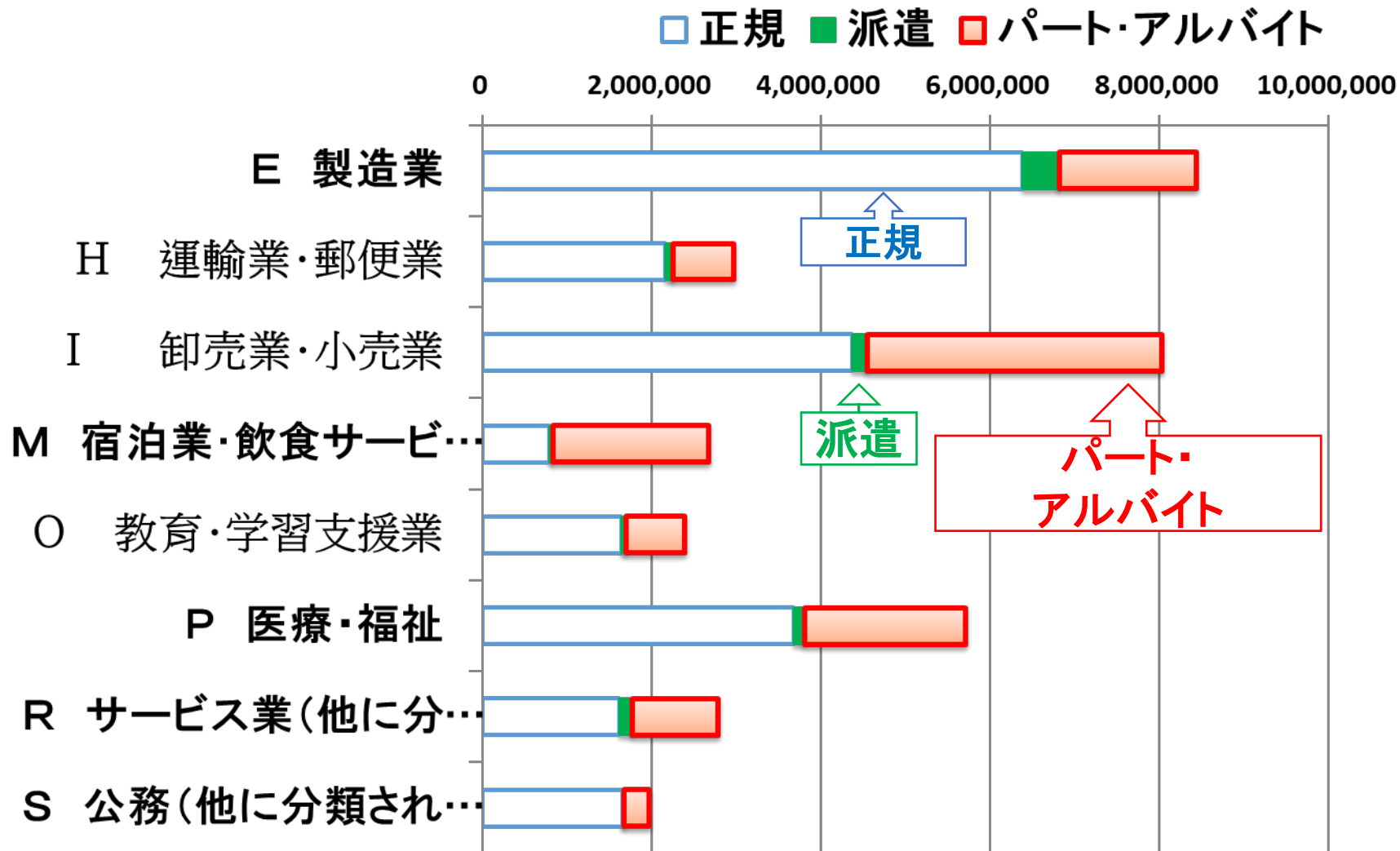


図12 2000,2005,2010 年度別産業従業員数と分類の変遷(国勢調査)

年代別産業従業員数と分類の変遷

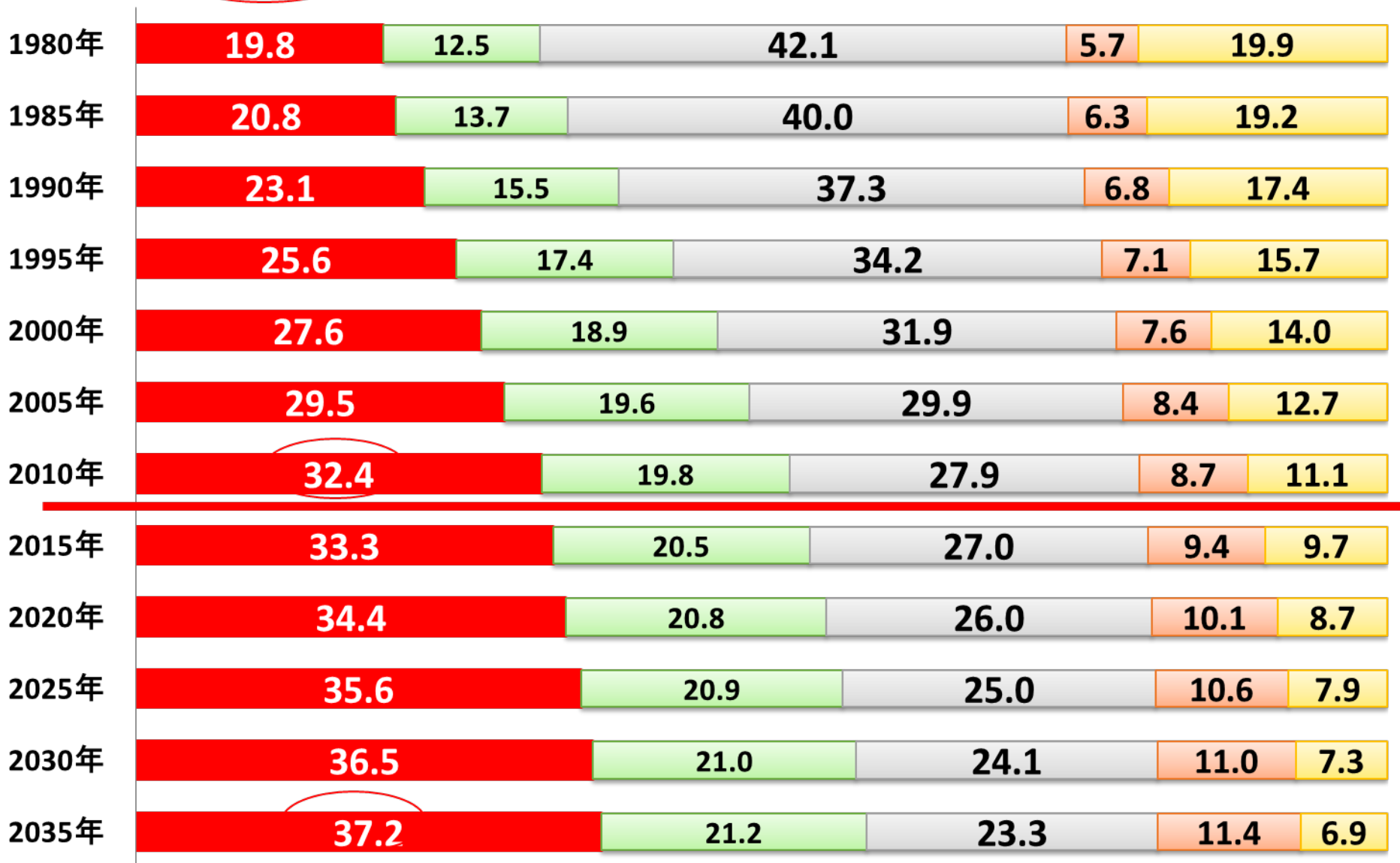


# 図13 2010年就業形態別従業員数(国勢調査)



# 図14 家族の類型別平均世帯人員の比率1980～2035

■ 単 独    
 ■ 夫婦のみ    
 ■ 夫婦と子    
 ■ ひとり親と子    
 ■ その他



# 図15 社会が変わり、子どもが変わる

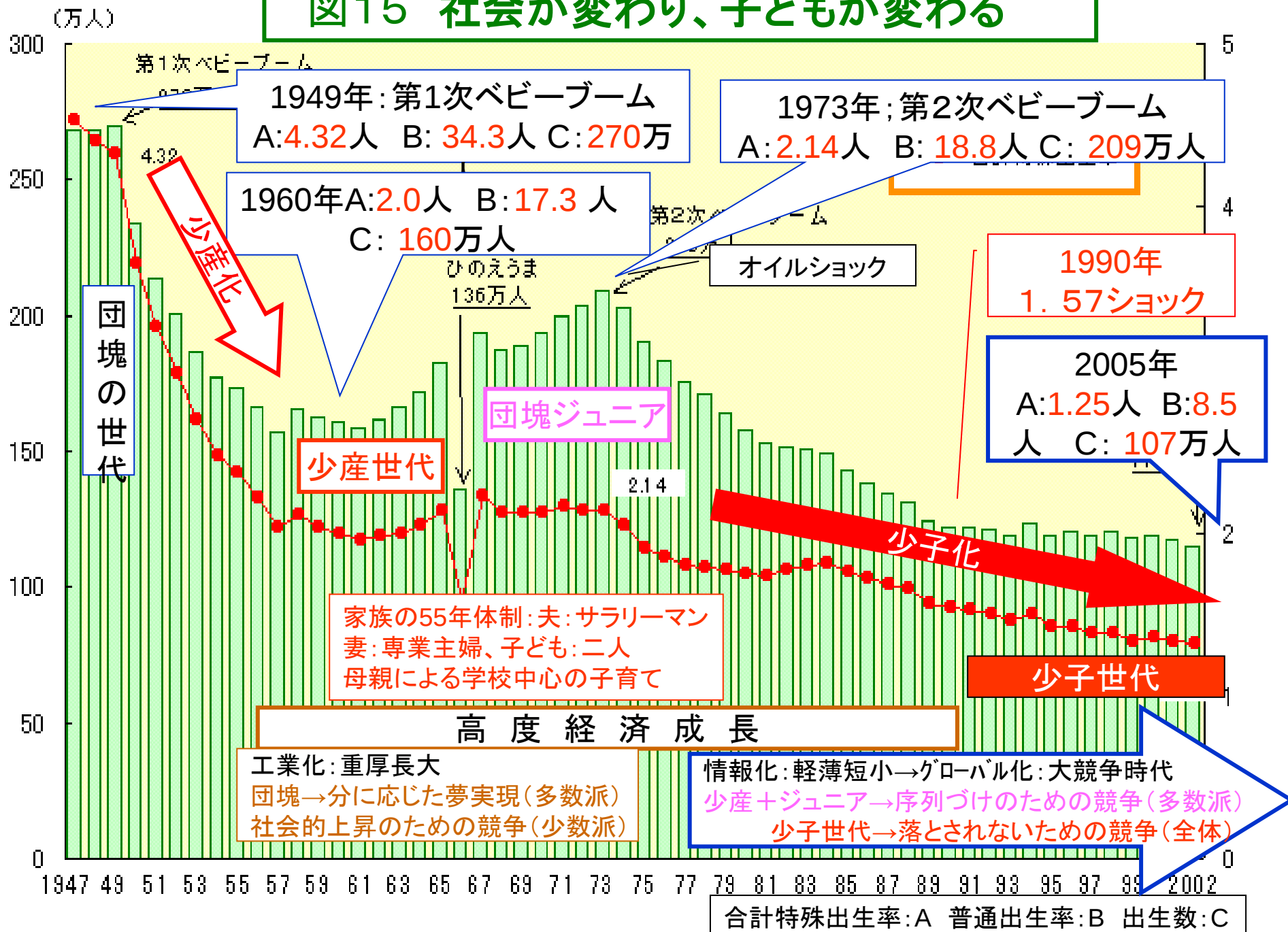
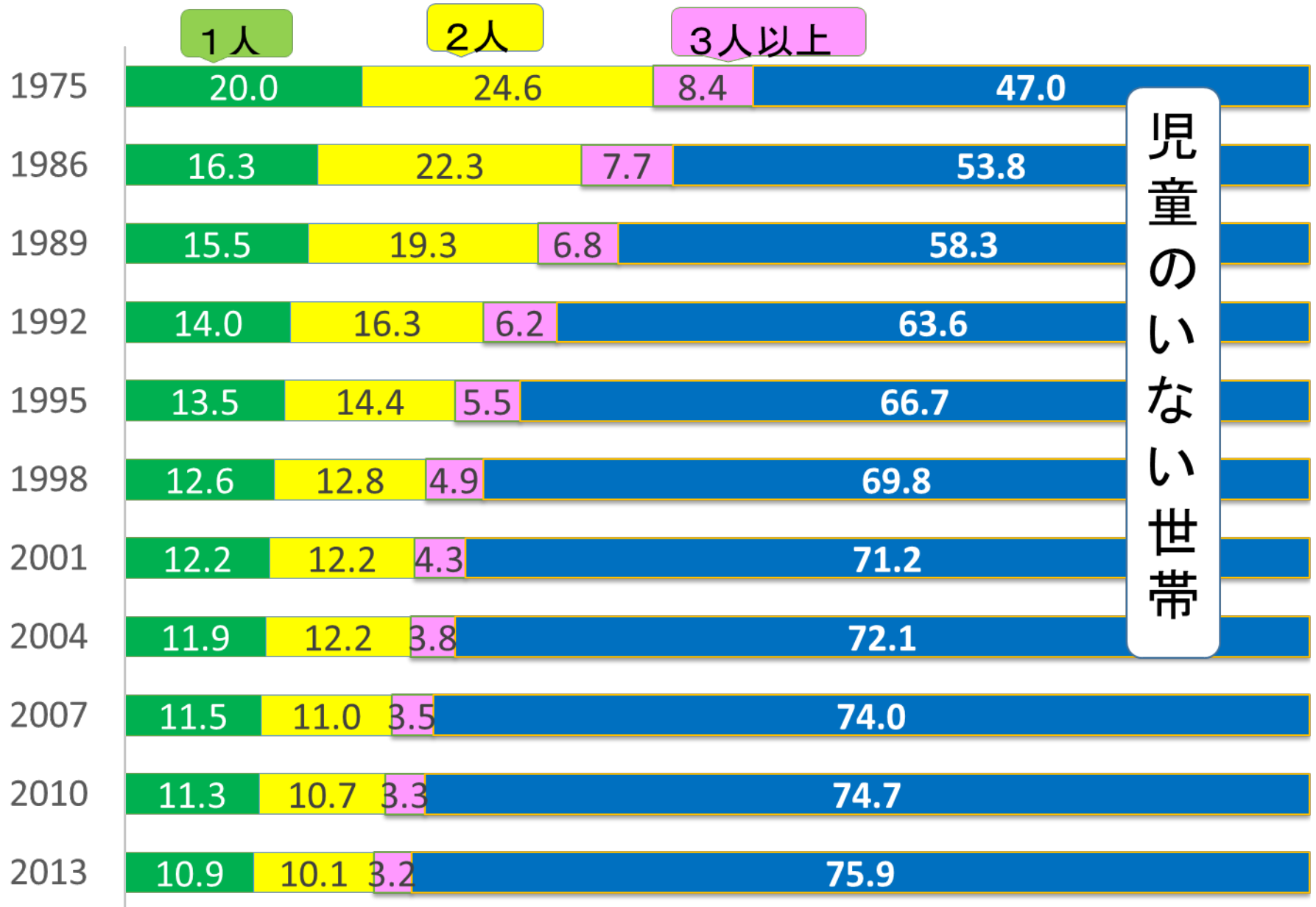


図16 児童の有無(児童数)別にみた世帯数の構成割合の年次推移



普通出生率

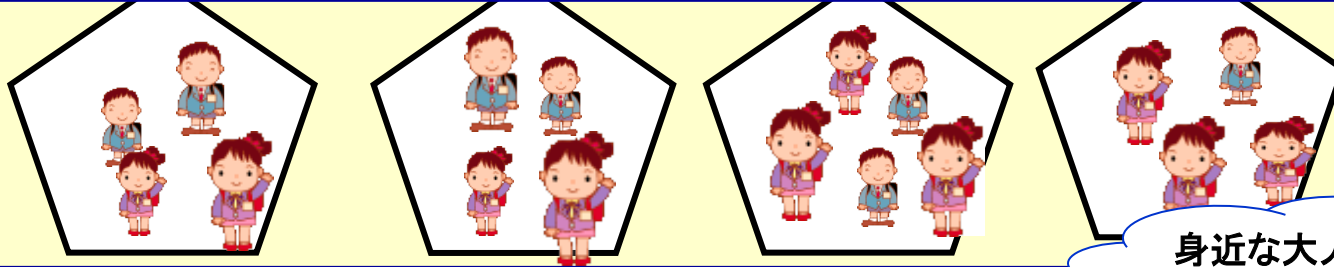
## 図17 子どもと家族の変化の関係図

合計特殊出生率

団塊の世代→モデルだらけ→夢は一人になりたい

(生まれたときから「いじめ＝弱点克服学習」→学校外が真の人生)

34人



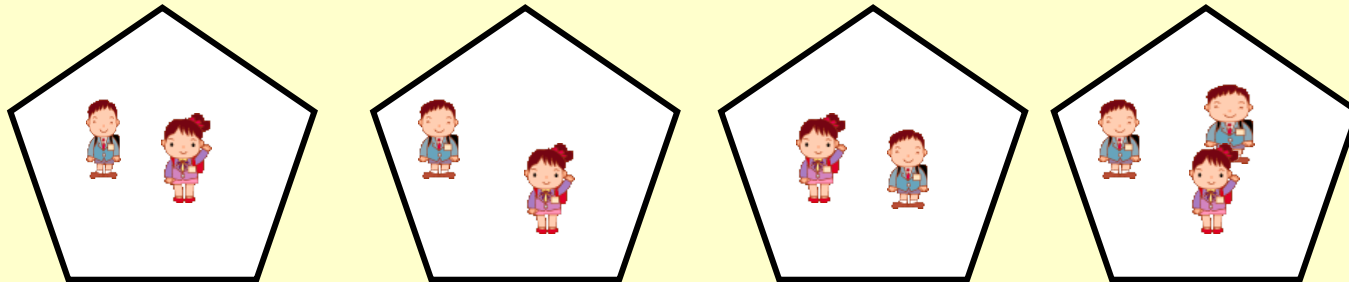
4.3人

身近な大人の男と女の  
モデルも失う

少産世代＋団塊ジュニア→異年齢の友を失う

(近所の友と「いじめ＝逸脱批判学習」開始→教室外で友獲得可能だが学校外は逸脱世界)

18人

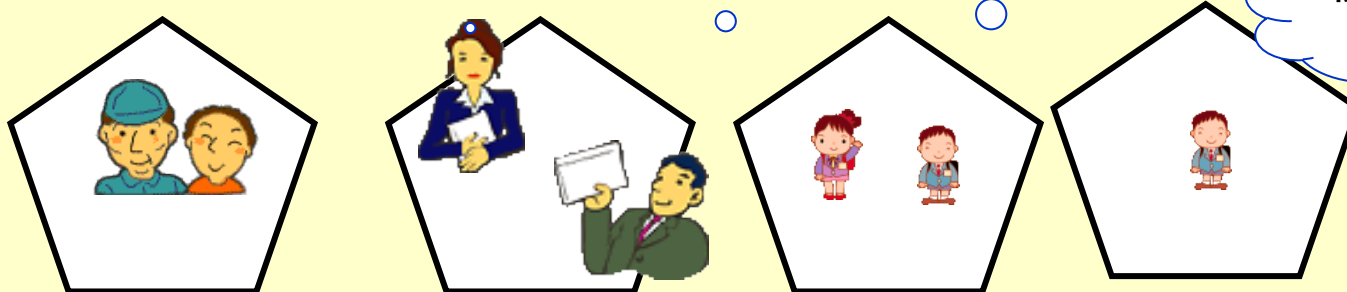


2.1人

少子世代→同年齢の友をも失い、教室の中しか友を見出せない

(学校の教室で「いじめ＝差異隠し学習」開始→友は教室の中のみ)

8.5人



親も未経験  
で孤立

1.25人

図11 子どもの変化といじめの変化

普通出生率

合計特殊出生率

団塊の世代→モデルだらけ→夢は一人になりたい  
(生まれたときから「いじめ＝弱点克服学習」→学校外が真の人生)

34人



4.3人

少産世代+団塊ジュニア→異年齢の友を失う  
(近所の友と「いじめ＝逸脱批判学習」開始→教室外で友獲得可能だが学校外は逸脱世界)

18人



2.1人

少子世代→同年齢の友をも失い、教室の中しか友を見出せない  
(学校の教室で「いじめ＝差異隠し学習」開始→友は教室の中のみ、

8.5人



親も未経験で孤立

1.25人

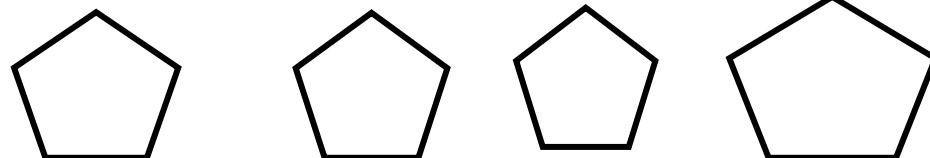


図18 女性の年齢(5歳階級)別出生数の割合:1925～2007年

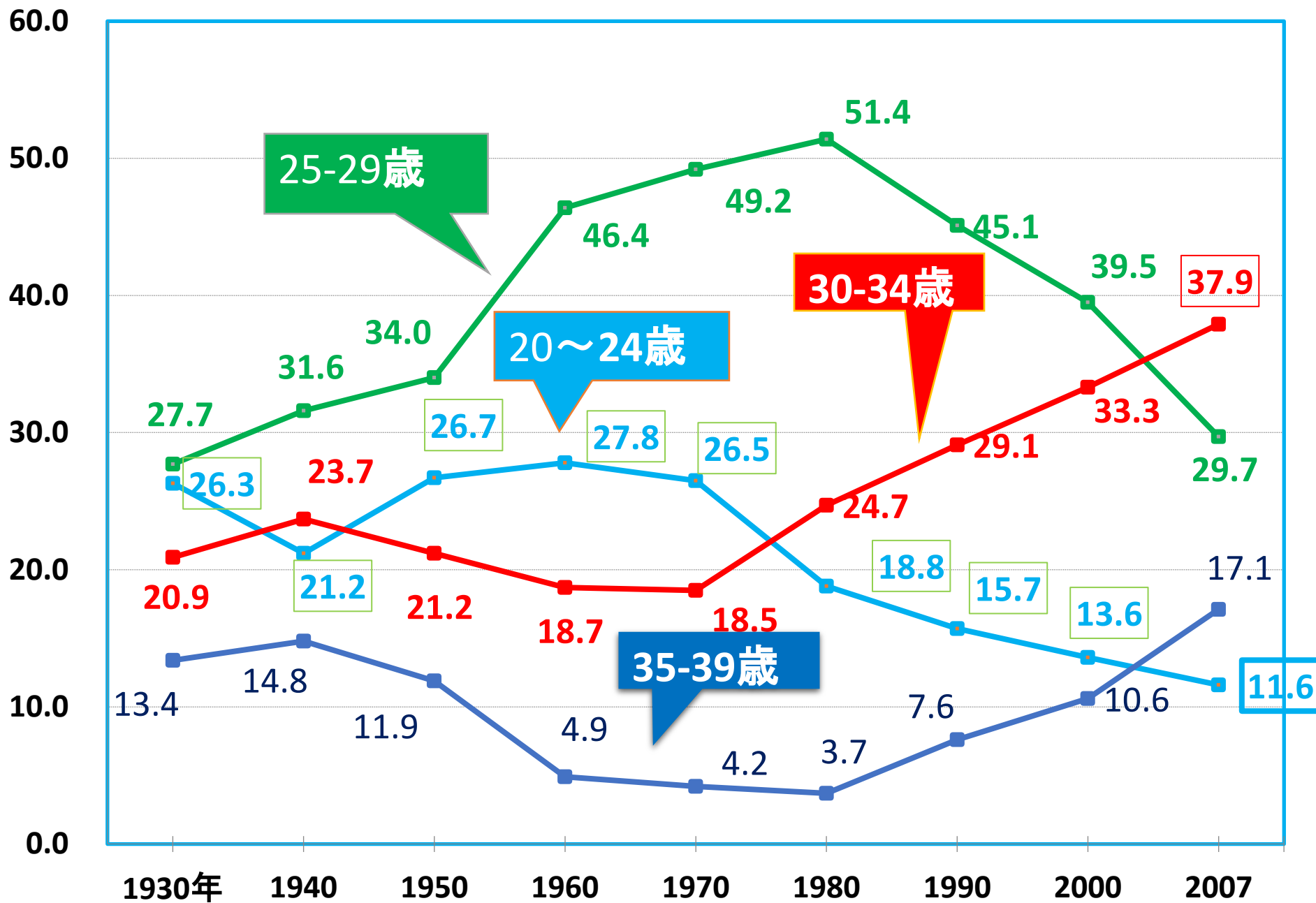
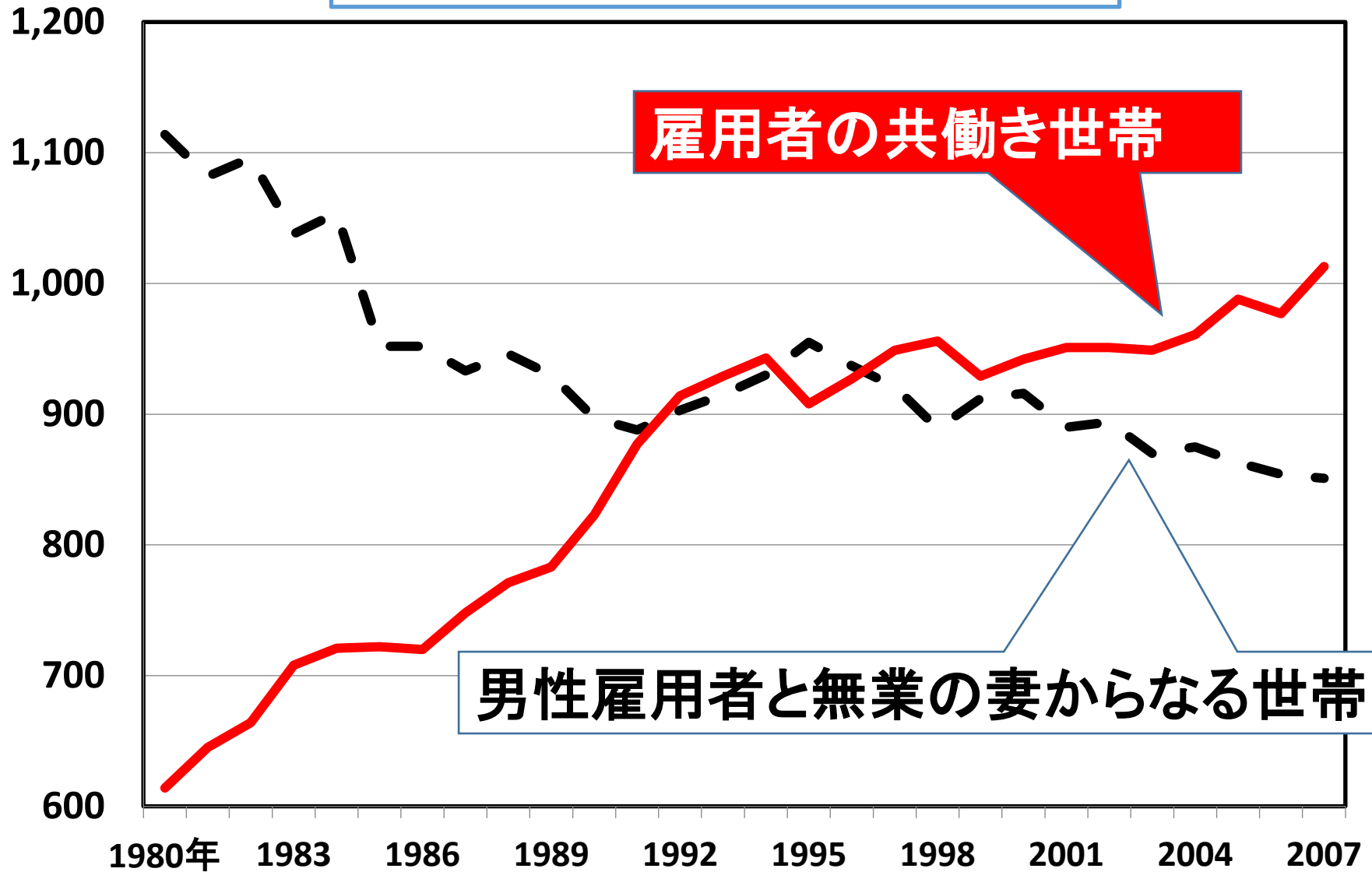


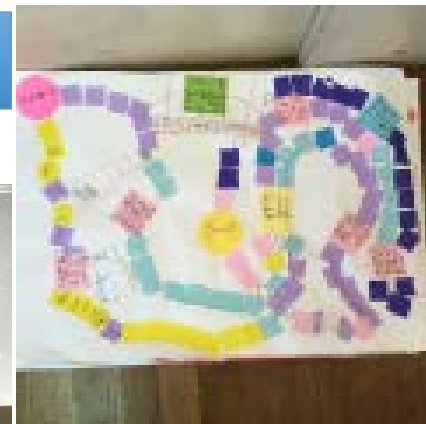
図19 共働き等世帯の推移

(万世帯)





# 長沼保育園の子どもたちの作品から



## 静岡市立こども園の「教育・保育に関する指針」

静岡市教育振興基本計画における「目指す子どもたちの姿」  
「たくましく しなやかな子どもたち」

（幼保連携型認定こども園教育・保育要領）  
「乳幼児期における教育及び保育は、  
子どもの健全な心身の発達を図りつつ生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの」

### 市立こども園が目指す子どもの姿

#### 自分が好き

自己肯定感 自分は大切 他者に対する愛着  
人から愛され、認められているという実感

#### 夢中になって遊ぶ

意欲 主体性 気づき 興味・関心  
情緒の安定 創意工夫

#### 自分の思いを伝える

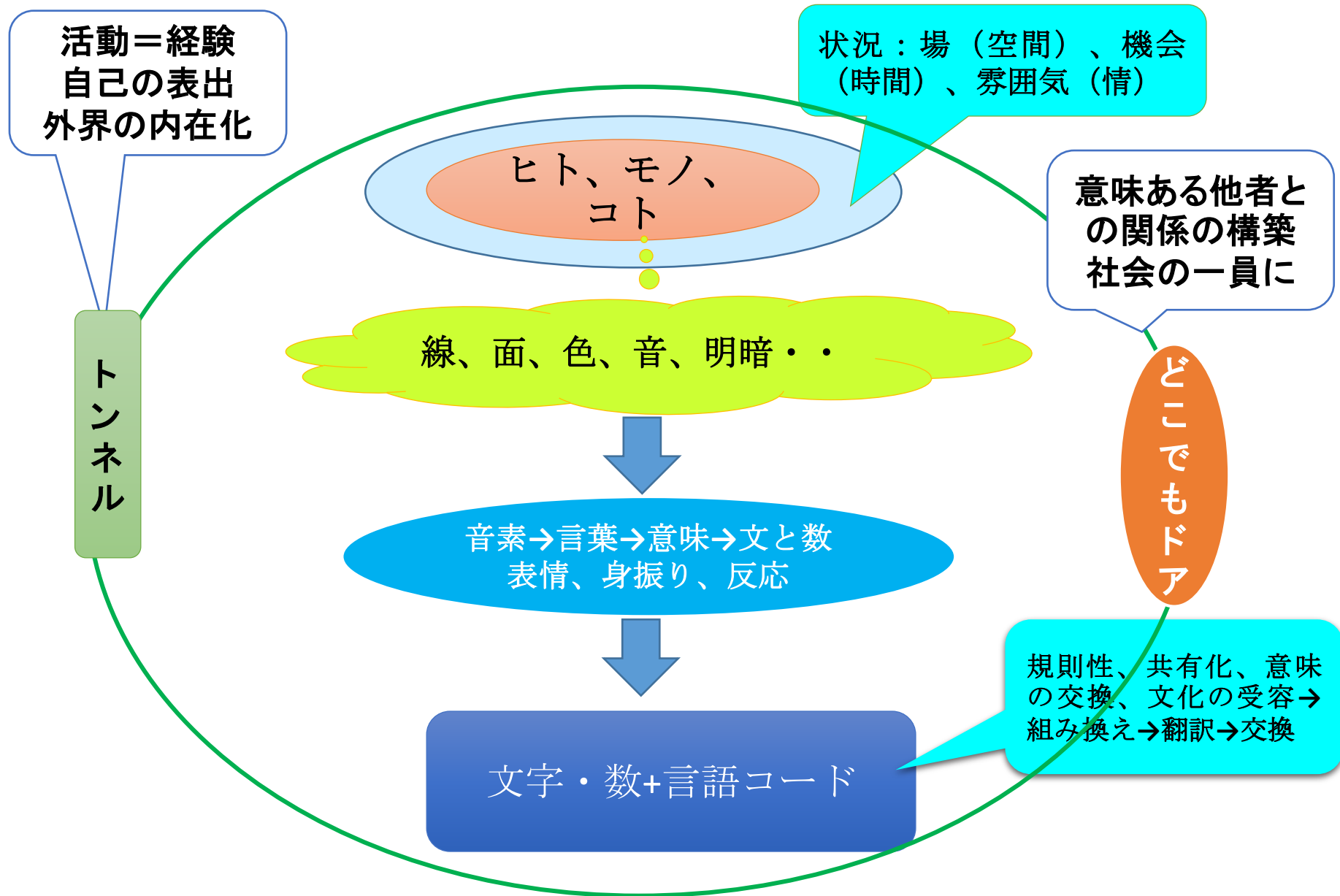
表現方法  
自己決断  
自己決定

#### 人とのかかわる

社会性  
規範意識  
思いやりの心  
協力

#### 自分のことは自分でする

基本的な生活習慣



文字の学を、ひらがな・漢字の記憶・操作ではなく、言葉の発生源からたどる→創造  
文字はヒト、モノ、コトの分別、つながり、組みあわせ、意味の付与、世界の操作  
→その子の生きる世界の創造作業→段ボールのトンネルの役割

小学校の活動は型が前提→教科学習の手段→事前に準備された内容を理解、記憶、操作力  
幼稚園の活動は子ども一人ひとりが自分の型を見出し、組み合わせ、  
他者との共有とセットになった自分の世界を創造（構築）する場  
幼児の絵・・・自分の世界の表現、とりこんだ外界を他者に示す創造作業  
線と面と色で、ヒト、モノ、コトを未分化なまま表現  
ヒト→直接接する自分と未分化な存在→ま～→ママ（固有名詞の意味をもった音素）  
自分のママ→母親という普通名詞→音素→言葉→文字→意味＝文脈→思考＋感→・・・

幼児教育の活動の世界→遊び

→その子にとっての型を見出し、組み立て、他者を組み入れる  
→個別と共有のせめぎあい→個人化と集団化のはざまと選択が課される

学校教育は事前に準備された型への受容と適応を競うことが前提

教師、教科書、教室、時間割

階層や身分にかかわりなく、同じ教育（医療、行政、治安、安全、生活）を可能にする  
学校、病院、役所、警察、軍隊、そして工場は学校と時間、空間、行動様式、感情表現が同じ・・・

1年生の幼稚園は、小学校教育の準備→小学校は近代国家の土台づくり→国民をつくる

→小学校教育に適応する態度形成

3歳児からの幼児教育は独自の価値と機能（役割）をもつ

→幼児教育と英才教育と類似性と相違性

型にいれるのではなくその子にとっての型をつくる場と機会と雰囲気準備

英才教育は先に型がある→特定の能力の選別賦与が前提→特定の集団への帰属を要請

# 認定こども園と子どもの未来

無藤 隆（白梅学園大学）

## 1. 新制度の意義とは

- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園を含め、子ども・子育て支援全体の量的拡充と質的改善を図るため、**7千億の安定財源**を確保する（消費税10パーセントの段階で）。
- ・ **待機児童**を解消するため、保育所・認定こども園その他を増やす。
- ・ 少子化が進んだ地域では、**子ども集団を確保**するため、  
幼保を含めて、認定こども園に統合を図る。
- ・ **幼児教育の質を高めるため、とりわけ民間の幼保等の  
保育者の待遇改善や研修時間を増やす。**

## 2. 認定こども園の特質

- ・幼保連携型認定こども園は、幼稚園と保育所を兼ねるものである。
- ・すべての子どもに幼稚園教育を提供する。
- ・保育の必要のある家庭のすべての子どもに、年齢を問わず保育できる仕組みとする。
- ・子育て支援を広げ、在宅の養育家庭への支援を進める。
- ・認定こども園では、「教育及び保育」を地域のすべての子どもに提供することを目指す。
- ・教育及び保育の中核は、子どもが「集中して遊ぶ」ことである。

## 3. 保護者への支援・連携

- ・子育て支援を充実させ、認定こども園を中心に子育て支援のセンターとしていく。
- ・そこでは親子の集いや子育て相談その他を行う。
- ・保護者に保育の中身の実態と意味を伝え、幼児教育の意義を理解できるようにする。
- ・家庭での様子を園側で把握し、保育に生かす。
- ・どの園に子どもが行こうと、水準の高い幼児教育を受けられるようにする。

## 4. 幼児教育・保育の質の向上

- ・ 共通となる指針を作り、どの園でも最低限実施する内容と子どもの力量形成を図る。
- ・ 研修の機会を増やし、保育者がその保育をよくするために学べるようにする。
- ・ 民間の保育者の待遇を多少とも改善し、長期の勤務を可能にする。
- ・ 日々の保育の見直し、記録、指導計画の検討、教材準備の時間を確保する。
- ・ 自己評価を通して、園の改善計画を立てる。
- ・ 外部からの評価を実施し、専門家からその保育の良い点と改善のポイントを示すようにする。

## 5. 小学校教育の基盤を作る幼児教育

- ・ 小学校以降の教育を見通し、幼児期に育てるべき力を確実に育成する。
- ・ 学びに向かう力（意欲、集中、持続、挑戦）を育てる。
- ・ 種々の内容面（例えば、自然物、数量、言葉や文字）への気づきを育てる。
- ・ 子どもたちが互いに共通の目的に向けて協力する活動を増やす。
- ・ 生活習慣の自立や小学校への準備を年長の3学期に小学校と打ち合わせて行う。
- ・ 小学校ではスタート・カリキュラムを幼児期に培った力を生かす活動としていく。
- ・ 低学年教育を、幼児教育を引き継ぐ形で進める。

# 認定子ども園への期待（希望） 人口減少時代の日本の現実

☆ 90年代から少子化の現実と向き合ってきた研究者の立場から

馬居の観点は

☆ 「家の子」 → 「国家の子」 → 「自分の子」 → 「社会の子」

## 1. 「保育に欠ける」から「保育を必要とする」へ

- ・ 母親が働くことを「欠ける」とみなす社会的通念と法的前提を崩す
- ・ 女性が働くことを当然視することの前に、  
専業主婦という社会的制度への疑問視
- ・ 子育て支援の現場から学んだことは、一人の女性だけでは人は育たない
- ・ 戦後家族（日本版近代家族）への反省
- ・ 専業主婦こそ「保育に欠ける」ことへの鈍感さ
- ・ 親の職業ではなく、親子の関係から選択できる制度の改編を

誰もが「保育園」を選択できる制度に

## 2. 幼児期からの教育の制度化を

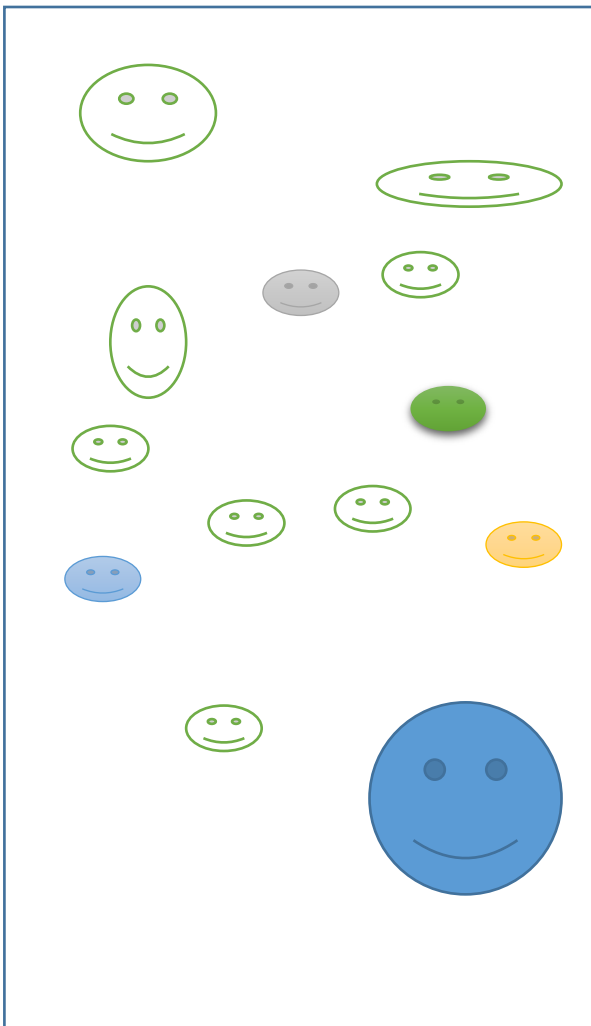
- ・個性、能力、意欲の総合としての適性に即した自己実現の強制
- ・だれもが自分の潜在力を引き出し高める制度の要請
- ・三歳児教育の制度化の必要性
- ・「三つ子の魂、百までも」→第一次的社会化→言語の選択
- ・他者との関係の学習（社会化）のスタート

誰もが「幼稚園」を選択できる制度に

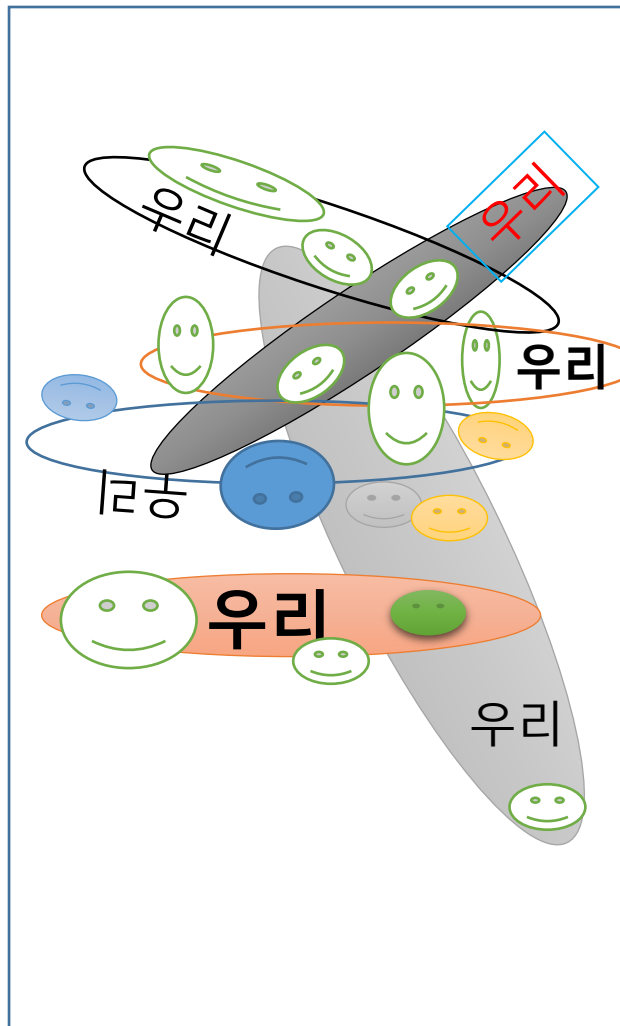
## 3. 「ともに育つ」、「場」、「機会」、「雰囲気」の保障のために

- ・「多様」「多元」「可変」の社会化のスタートは三歳児から
- ・「他者への貢献」を最重要価値におく社会関係の共有化
- ・子どもにとって最大の教育環境は子ども
- ・午前で帰る子どもと午後もいる子どもがともに育ちあうことが大事
- ・異なることが当たり前→多様性
- ・複数の異なる特性の仲間集団があることが当たり前→多元性
- ・それらが変化することが当たり前→可変性

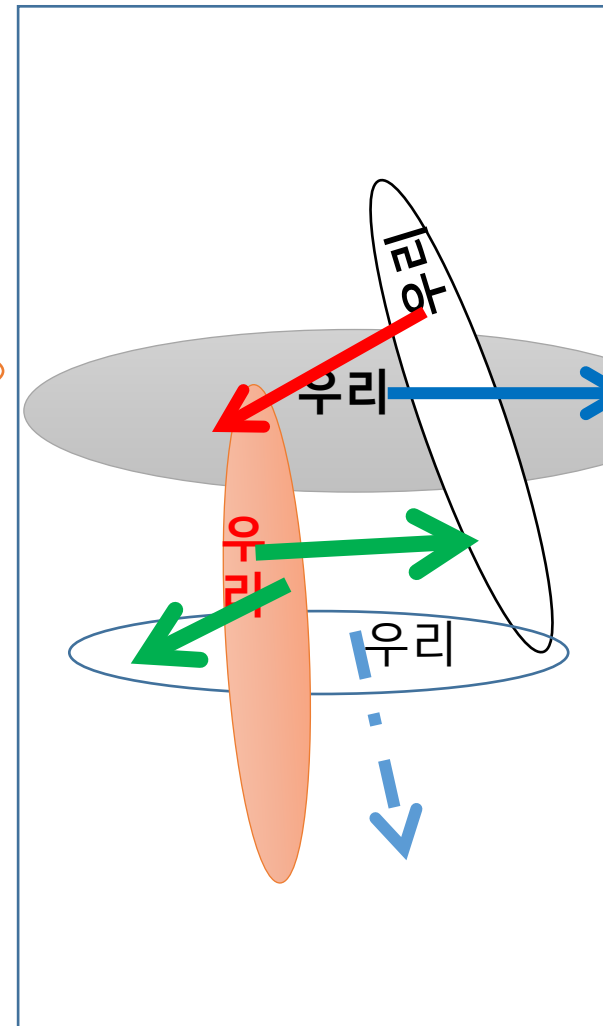
## 다양 多様



## 다원 多元



## 가변 可變



多様な子どもたちが、  
多元的な集団間と集団内で、  
変化する遊びをとおして  
きそいあい、あらそいあい、ささえあい、まなびあう

子育ての目的は、親からの自立（子捨て）  
必要なのは、  
社会（多様、多元、可変）に  
旅立つための基盤（個性、能力、意欲）  
の育成

## 4. 理想は高く、現実は着実に

- ・ 現行制度を変えることで生じる問題の解決との共同歩調で
- ・ できることから初めて、しなければならないことへの挑戦を忘れずに
- ・ 困難だからこそ、その克服によって新たな力が生まれる喜びの実感を

## 5. 新しい保育と教育の制度を子どもが学び育つ現場で創造する自負と誇りを

- ・ 静岡市が挑む認定子ども園創設への質的量的準備の価値の高さへの評価を
- ・ 子どもが生まれ、育ち、学び、自立するための制度の創造を現場で担う
- ・ 静岡市での問題解決の歩みが、  
日本から東アジアに広がる人口減少時代の希望に

人口減少社会に適合した  
育児・保育・教育システム構築の歩み

現時点での実現を  
目指す制度

中学校

小学校

放課後児  
童クラブ  
+  
放課後子  
ども教室

誰もが3歳から  
「幼児教育」を選  
択できる制度に

地域子ど  
も・子育て  
支援事業

必要性に応じて多様  
な「保育施設」を選  
択できる制度に

保  
育  
園

認定  
子ども園

預  
かり  
保育

幼  
稚  
園

サポ  
ート  
シス  
テム

保  
育  
コ  
ー  
デ  
ィ  
ネ  
ー  
タ

子  
ど  
も  
未  
来  
サ  
ポ  
ー  
タ

小規模  
保育

子  
育  
て  
支  
援  
セ  
ン  
タ  
ー

人口減少社会に適合した  
育児・保育・教育システム構築の歩み (3)

私が目指すのは

社会的活動・塾・スポーツ・習い事

多様・多元的な公的支援事業

放課後  
児童ク  
ラブ

中学校

小学校

認 定  
子ども園

預かり  
保育

幼稚園

保  
育  
園

小規模保育

子育て支  
援セン  
ター

誰もが多様な  
「保育施設」を選  
択できる制度に

誰もが3歳から  
「幼児教育」を選  
択できる制度に

多様で  
多元的な  
子育てサ  
ポートシ  
ステム

誰もが育児休暇  
をとれる社会に

育 児 休 暇

